



2022年(令和4年)2月 第1号

発行: 越智郡上島町下弓削515番地 千7942506 NPO法人・頼れるふるさと ネット配信 Tel. 090-8247-5279(平山和昭) Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp 上島町自治研究会

自由参加型任意団体 上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作り・寄与する町民の自主的活動を応援する。
③会は定期的に自治研究会を開催する。 入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

「上島町自治研究会」

2009年(平成21)2月に発足した民間任意団体です。略称は「自治研」。

発会の趣旨は、「わが町における住民自治機運の涵養(かんよう)でありました。」

要は、少子高齢化がどんどん進行してゆく中で、わが町が将来独立した自治体として存続し続けるには、まずはそこに住む住民自らが、行政頼み一辺倒ではない動き、少なくとも住民自身の利害に関わる

ことには、住民も当事者意識をもち、住民発意で出来ることはしてゆかねば困難なのではない

地域のこれからを考える「上島町自治研究会」メンバー



「ワトスン」創刊ニ挨拶

このたび上島町自治研究会(通称自治研)から機関紙「ワトスン」を発刊する運びとなりました。当面手配りでお手元にお届けします。

会の規約も見直しながら再開上島町自治研究会として集うことになりました。

自治、自治機運の涵養とは当会では住民自治とは次のよう考えています。

「自分たちの住む地域の主役は自分たち自身。よって地域社会の日常における諸々に常に関心を持ち、良い方向へ向くように関わってゆく。」

つまり、地域社会に住む以上地域社会での出来事は様々な姿をとって自分自身に関わりがあり、したがって地域社会が向上するよう、日頃から関心を持つように心がける。簡

か、という危機感からでした。発会2年後の2011年(平成23)から、会はNPO法人を立ち上げたので、会の設立趣旨を法人の活動に含めるとして自然休会となっていました。

ところが近年のコロナ禍や、一層進む人口減対策につき行政の施策も中々その効果が見えない中、原点に戻り、住民が語り合うフリーな場があってもよいということと2021年(令和3)10月、元の

単にいえば以上のようなことだと考えます。

紙名は「ワトスン」

ご存じ19世紀後半のイギリスで大ヒットしたコナン・ドイル原作の推理小説シャーロック・ホームズシリーズ。主人公である名探偵ホームズには、もと軍医の「ワトスン博士」という人物が親友として登場します。ホームズの難事件解決は、このメモ魔ワトスンの記録と語りで行進します。

そのワトスンにちなみ命名しました。

申すまでもなく地域のこれらを考えるのは地域住民の方々。そうした地域住民の皆さんにコミット出来ればよいと念じています。

当会は、基本的な月に一度の会合(月例会)を持ち、参加自由型ですので、どなたでもお気軽に参加できます。

なお開会情報などは本紙に掲載しているメールアドレスや電話番号にてお問い合わせください。現在おところ毎月第4土曜日、午後2時から。場所は弓削消防庁舎2階小会議室。

皆さんの盛んなご参加をお待ちしています。(自治研究会世話人一同)

月例会から

2021年10月~2022年1月

発会の2021年10月から2022年1月までの月例会では次のようなことが話し合われました。

- ①2021年(令和3)10月23日14:00~
・旧会則の改正:事務所場所の変更(→下弓削515番地へ)及び世話人数の変更(3人プラス会計、監事各1人→4人プラス会計、監事各1人へ)。
・月例会をもつ。機関紙を発行する。
・上島架橋完成を機に町内自治会の組織形態の統一が必要ではないか。
・議会におけるセクハラ、パワハラ、女性差別の実態:町の男女共同参画推進委員会に取り組み課題として取り上げてもらったかどうか。
・町議会では議長不信任案が可決された。:実効性がないのはおかしいのではないか。
②2021年11月20日(土)14:00~
・11月14日開催された上島町文化財講座「弓削島の中世建築文化」聴講の感想。:文化財保護と活用は、人口も減少するので地域だけで守っていけるものでもない。行政と地域とが協力し、観光資源としても文化財の保護を行い、子どもたちへの教育を行うことで将来へとつなげていくことが大事。
・イノシシ被害とその対応:移住者の若い人たちがたちあげたイノシシ駆除組織「下弓削イノシシバスターズ」の活動報告を元に意見交換。:鳥獣害駆除に関しては世代を超えての協力が必要。地域一丸となって対策をとるべき。
③2021年12月25日14:00~
・会則における用語などの定義について:今後自治研の活動を展開してゆく中で、用語定義の共通認識が必要のため議論を深めた。
・機関紙の体裁と発行について:新聞紙1ページの半分のサイズ。発行回数、毎月を目指す。当面試行する。紙名を「ワトスン君」に。
④2022年(令和4)1月22日14:00~
・機関紙名を「ワトスン」に変更する。
・議会で弓削高校の給食可否が論議されていたが高校存続のための取り組みとして、高齢者も高校生と一緒に学べる聴講生制度の創設はできないものか。
・架橋完成を間近にしたい。町内小中学校の統廃合が検討、論議されている。子どもたちの将来にとって一番よい方法とは。

商船昔物語 松下邦幸

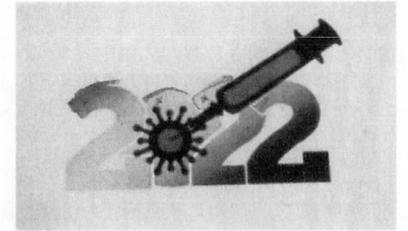
昔の商船寮生活 (1) 一高専昇格以前の全寮制時代一

連載

弓削商船学校
の創基は、校史によると1901(明治34)年である。昨年2021年11月12日に、創基120年記念式典が挙行された。筆者は1968年(昭和37年4月)本校へ入学して、昭和42年3月に卒業業をしている機関科E32期生である。

因みに昭和37年にはGNPがアメリカに次いで第2位に躍進するなど、日本経済の基盤が築かれつつある時期でもあった。当時の教育方針は、質実剛健、旧態依然としたもので、全寮全寮制の白砂寮に入寮して先ず驚いたのは、新入生は、上級生の命令には絶対服従しなければならぬという事だった。つまり中学を出てから直ぐに、旧軍隊のような組織に入ってしまったという事である。それでも1週間もすると慣れて来て、他の部屋に行くときはドアをノックして大声で「東京12号室1年松下入ります!」と大声で言って入る。各部屋には4人部屋で2段ベッドが2つと各自の机。本棚があり、私物を持ち込む空きスペースは殆どない。この部屋に1年生が2人と2年3年生が2人の計4人で生活する訳である。相部屋上級生、通称「オヤジさん」の性格によってその後の人生の幸不幸が決るのである。私のオヤジさんは、何事にも温厚な人で随分と助かった。
1年生の生活は、学校の授業+部活動以外の時間は寮内に戻って部屋の拭掃除から廊下・便所・洗面所等の掃除である。時間が空けば洗濯をする。むろん洗濯機など無いので棒石鹸に手洗いで洗った。オヤジさんのT字型下着もよく洗った。代わりにオヤジさんは、個別に私の勉強を見てくれた。
「点検終わって朝掃除、冷たい水を汲んできて、廻れ廻れの拭き掃除。これじゃ俺らもたまらない」(歌集・商船学校十ヶ条より) (つづく)

一当事者意識という視点から一 コロナ禍対応と住民自治



新型コロナウイルス感染症禍が始まって2年が過ぎ、現在は第6派のオミクロン株の感染力強さに、日本中で感染者数が記録更新が続いている。そんな中、愛媛県は、今まで通りの蔓延防止での飲食店休業だけでは、この苦境を乗り越えられないとし、いわゆる「まん防」は発令しないとしている。様々な見方があると思うが、個人的にはこれもありだと思っている。

今でも自分たちでできる精一杯感染対策は行っている。危険を冒してのワクチン接種もその一つだ。そもそもワクチン接種に関しても、きちんとした説明を受けた人が何人いるのだろうか。どんな成分が入っていて、どんな人に副反応が起りやすく、どういう危険性があるのか。接種券の最後にサインするのはなぜか。とめどなく疑問が湧いてくる。

コロナ、コロナと騒ぎ始めてから、マスク、手洗い、うがい、消毒と様々な対策を個人が行ってきた。不特定多数が出入りする場所には、必ず消毒液が置かれ、検温のシステムがある。確かに、感染するのは嫌だし、まして重症化することは避けたい。

わが上島町では、住民の皆さんの努力のままものと思うが、発症例は本当にわずか。

お隣の広島県では爆発的な感染拡大をしている。生活圏が広島県であるにもかかわらずこれだけ感染者が少ないのは立派だと思っている。だが、町の防災無線の放送では毎日のように感染しないように国や県のお知らせをそのまま繰り返している。

ワクチン接種しても感染するのに、ワクチン接種しなければ周りに迷惑をかけるという同調圧力もそうだし、任意接種なのにワクチンパスポートを求めることも異様だ。副反応のおそれから接種できない人がいるような薬であることも問題。ワクチンは万能ではない。

感染者対応も県などに任せで、まったく町民を守る状況になってない。感染の不安があっても、松山や新居浜まで無料のPCR検査を受けに上島町から行くには遠すぎる。いつだったかの議会で町長が、国や県の方針に従っているの上島町では何もできないと言っていた。本当にそうなのか。財政厳しく小さな自治体では本当に何もできないのだろうか。感染したとき濃厚接触者になったとき、生活を守ってくれるのは国でも県でもない。家族、親戚、隣近所、地域だ。

ひとりひとは努力しているのだから、もう一歩進んだ取り組みを考えてもいいのではないのか。上島町独自の安心サポートシステム、安心安全の仕組みは、住民側からも行政に働きかけて作っていかねば、いつまでたってもコロナの不安と恐怖から逃れられないのではないだろうか。

つまりこのことは、住民の自治意識が問われているということでもあるのだろう。

(大西幸江)



★生口島(瀬戸田)の観音山初登頂。頂上に東屋と梵鐘楼。眺望絶佳!



東寺領塩の荘園弓削島荘について 島の歴史を どう今に活かすか

西暦1239年(鎌倉時代)、後白河天皇の娘宣陽門院が京都東寺へ弓削島荘を寄進したことから、300年余りの弓削島の塩の歴史が始まり、その史実が東寺百合文書に多く残されている。

令和3年10月11日指定された数々の弓削島荘遺跡は、上島町の誇りであり、他に例を見ない大きな歴史的財産である。

この要因となるものは、弓削島



弓削島の荘遺跡国指定祝の会主催の講演会も開催された。(令和3年11月27日 於弓削地区せとうち交流館)

「東寺の塩の荘園であったことが全てであり、塩の荘園と言えは弓削島であると専門家は言う。加えて、それらの証拠となる製塩遺跡や遺物を長年にわたり、調査・発掘してきたのが愛媛大学であり、また、弓削塩文化を伝える会やNPO法人弓削の荘による製塩と歴史継承活動・東寺への弓削塩献上が現在も行われている。

平成16年3月、町村合併直前には、この塩の歴史を総括する弓削島・塩の里構想が策定され、新町上島町に託されたが、実施には至らなかった経緯がある。

世界が認めた東寺百合文書は世界ユネスコ記憶遺産登録、国が認めたこの度の弓削島荘遺跡は国指定となり、先人が培ってきた大きな歴史を次の世代へと継承することが、今を生きる我々の使命であり、今こそ産官学が一体となり、史実、遺跡、製塩をキーワードにした、後世に誇れる町づくりが急務である。 村上知貴

オピニオンオブザピープル 投稿欄

効果的な行政運営にむけ 上島町の自治会組織形態の統一を

岩城橋開通に伴い、それと共に、現在の橋が繋がった町内の最小地区の区割りに行き来が、天候や時間帯に左右される事なく出来るようになり、ようやく一つの町としての連帯感が本物になってくると思えます。現在、町内各島では、自治区(会)の呼称が「○○区」とか「○○番、あるいは○○分団」とか言うように旧町村時代の呼称で続けられています。これらはみな歴史ある呼称にはちがひがあり、また、今後の効果的な町の行政運営のために、このたすの架橋完成を機に、自治区の呼称に統一したいと思えます。(ホームズの愛すべきワトスン・k)

編集後記
上島町自治研究会(自治研)会報1号をお届けします。会報の名称は「ワトスン」と名付けました。ご存知、名探偵シャーロック・ホームズの相棒です。その心は、「探索」「探求」。平たく言えば皆で考えよう、という事です。
A面に会の活動趣旨を掲げています。出入り自由ですので、どうか探索においでください。このご時世、民が分断されては町としての永続も図れません。老いも若きも夫々に取り組めることはある筈です。頑張ってください。自治研・ワトスン発行係



町はひとつ民心もひとつをめざそう

上島町学校の在り方検討委員会を傍聴して

2022年(令和4年)3月
第2号

発行：越智郡上島町下弓削515番地
〒7942506 NPO法人・頼れるふるさと
ネット気付 Tel. 090-8247-5279(平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

上島町自治研究会

自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
 - ④入退会には特に条件を定めない。

義務教育卒業後、金の卵と呼
ばれ、あの上野駅へ集団就職列
車に揺られて東京へ。

あれから60〜70年。あちこ
ちで学校の統廃合問題が話題に
なるにつけ、時代の流れとは言
え寂しく感じます。

先日、令和3年の上島町の新
生児が15〜16人とか聞きま
した。極楽浄土に逝く方が12
0人とかです。

この数字を聞いた時、驚きと同
時に6年先の上島町の小学校新
1年生の人数が大凡この人数だ
と思ひ知りました。

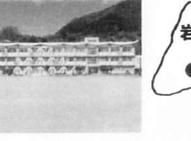
検討委員会で小規模校では、
統合では、メリット、デメリット
を話し合うのも大切なのでし
ようが、早急に小学校は3年後、
5年後とかで上島町立上島小学
校に、中学校は早々に上島中学
校とし、どの島に学校を置くの
が良いのかを検討すべきかと思
います。

品物、日用品などを販売してい
る店舗は昔ながらの小さな商
店が3軒と新しくできたコン
ビニのポプラのみとなってい
ます。

岩城中学校



町立岩城小学校



町立生名小学校



町立弓削小学校



▲町立岩城小学校

▲町立弓削中学校

我々の中学校時代に既に統
合があり、佐島小学校を卒業後、
弓削中学校へ通ってくる友達と
は3年間共に机を並べましたが、
小学校の6年間の絆が、中学3
年間よりも重きがあり、人生の
節目の会合の案内をしても、佐
島からの友は不参加が目立った
記憶があります。

「とし3月、橋で4島が繋が
り、車での往来は便利になりました
が、学校が遠うと当然人も知りま
せん、将来、上島町民の心一つ
を考へるならば、それぞれ上島
小学校、上島中学校となるのが
望ましいのでは、と考へます。

かつて合併協議会では庁舎を何
処にするかいろいろ意見もあり
ましたが、この度は、どの島に
小学校、どの島に中学校を置く
のが良いのか考へるべきでは無
いでしょうか。地域から学校がな
くなるのは寂しく残念ですが、
どうしようもない現実を目を向
け議論する検討会を望みます。

「元気でたくましい上島の児童
生徒を目指し、笑顔あふれる楽
しい学校づくりをお願いします。
(弓削・濱村寿)



高齢者など買い物難民の課題、問題点

1月末に生名地区において日
立因島生協の店舗が閉店しま
した。あまり利用してなかった
人達にとっては特に困ったこ
とではないにしても、今までとっ
ては切実な問題でしょう。

先日、日立因島生協理事長の
神野さんにお話を伺ってみま
した。

「生協生名店が閉店しました
がこれからの上島町での営業
展開はどのように考へられて
いるのですか?」

神野さん「生名店につい
ては老朽化が進んでおり生名
橋開通後も徐々に売り上げが
減少し、又、お客様用の駐車場
も整備されていないなど皆様
にご迷惑をおかけしてしまし
たが、この度、より良いサービ
スの充実を図るため生名店を
弓削店に統合させて頂いたた
とご利用くださいました。又、今
までご利用いただいていた生
名地区の方々には少しでも困
らないようにする為、移動販売

品物、日用品などを販売してい
る店舗は昔ながらの小さな商
店が3軒と新しくできたコン
ビニのポプラのみとなってい
ます。

車の配車やカタログ販売のコ
パルの提案など、買い物難民を
できるだけ解消するように対
応していきたいと進めている
ところです。又、移動販売を始
めてから、それまで生協まで行
くことが困難だった組合員さ
んの中には、自宅の近くまで来
てくれるので以前より助かっ
ているとの声もお聞きしてお
ります。」とのことでした。

しかし、上記のお店や移動販
売車も近くに來ないのを利用
できない、交通手段もない、い
わゆる買い物難民も実際に存
在しています。それらをどのよ
うに助け、解決していくのか。

地域の課題でもあります。民
間の力を当てにするだけで
なく、行政もリーダーシップを
とりしつかりとした道しるべ
や、対応策を早急に示していた
べきではないものであります。

(生名) ワトスン K

商船昔物語 松下邦幸

昔の商船寮生活(2) 一高専昇格以前の全寮制時代一

連載

当時の食事は、3
食とも麦飯で食器
はアルミニウム製
のカネの茶碗で、ポ
ール状の大小、3
種類に竹の箸であ
る。大食器には主
食の麦飯・中食器
におかず・みそ汁。
小食器にお茶を入
れた。

食時時間には「いただきます」と
言うことから、5分とかからない。
とにかく1日中、空腹であった。
『嫌じゃありませんか商船は、
カネの茶碗に竹の箸、仏様でも
あるまいに、1膳めしとは情け
ない』

カッタークルー、15名は、各ク
ラス毎に屈強な人物が推薦され
る。商船学校だからカッターは授
業でもあるし、全員が漕げて当然
であった。私は6番を漕ぐこと
になった。早朝練習が始まると、毎
朝5時過ぎに棧橋に集合してカッ
ター訓練である。眠いけど、総員
起こしや点検・食事準備などが免
除される。訓練後帰寮してクルー
15名だけで朝食をとるのが何よ
りも楽しかった。ここだけの話だ
けど、おかわり自由の麦飯と、生玉
子が付いていた。



▲戦前の昭和14年(1939年)頃の
カッター操練風景。弓削商船学
校・昭和15年卒業アルバムより

カッターの座席は堅い木製である
角に体重をかけて真剣に漕ぐと
お尻の皮が剥ける。また、お尻の
皮が剥けない奴は本気で漕いでい
ない証拠なのだと言われた。
『ボート訓練で絞られて、腕は
節折れ骨は出る、山のお猿じや
あるまいに、剥けたお尻に赤チ
ンキ』(歌集商船学校十ヶ条より)
昔の1年生は、学校の敷地内は、
365日裸足であった。服装は頭
の上から下まで白一色の水兵服で、
休日以下弓削の街に出かける時
は4・5人の2列縦隊の集団行動
だ。若し上級生や教官に出会った
時は最前列の者が号令する。
『全体!止まれ!イチツニー!』
接近してから海軍式挙手の礼を
する。教官達が遠ざかる迄1年
生は直立不動で挙手の停止礼
をした。

(つづく)

上島町公共施設等のあり方検討協議会

協議会の使命と課題について

わが町では、平成16年、4ヵ町村合併に伴い、町が保有する建築系公共施設は特に多く、平成27年度末現在266施設となつております。

また、整備された施設の老朽化を始め、人口減による施設等の利用需要の減少、厳しい財政事情を考えると公共施設等の総量縮減、経費削減を図り、計画的に施設等の更新や維持管理を行わなければならない。

平成26年4月、総務省連達により、町は平成26年7月に「上島町公共施設あり方検討協議会設置要綱」を制定。併せ、「上島町公共施設あり方検討協議会」が設置され、町長から提示された「いきなスポレク」と「生名公民館」2施設に関し、平成26年10月から3回の検討協議会で協議した結果、双方とも「施設の整備や一部管理運営の見直し等を行った上で存続」との報告書を提出しました。



写真は「存続」の対象となっている生名港の港務所施設。老朽化進行。かつ今後の活用需要は不透明

令和3年8月、新たに委員10名で「公共施設あり方検討協議会」が設置され、第1回協議会では、266施設のうち85施設(全体の約32%)を協議対象とする説明を受けました。しかしその85施設の詳細は、流動的で定かではありません。

令和3年12月、第2回目の協議会では、各地区にある斎場を生名地区へ集約し、立石、生名、弓削の各港務所、バス車庫、CA TV本局は存続、弓削公民館は廃止・撤去との町長の意向が示され、これらに同意しました。わが町が公共施設の総量縮減等に取組んでから、7年程が経過しますが、進行中を入れても11施設(全体の4%)しか結論に至らないのはなぜか。その大きな理由は、町の設置要綱の条文にあると思われ、その第2条に「検討協議会は、町長から提示された公共施設について、その施設の適正なあり方等に関する事項について協議し、その協議結果を町長へ報告する。」とあります。しかし、他の自治体の条文では、「市・町が保有する公共施設について」と明記されています。政治的思惑の入りかねない首長提示ではなく、まず自治体の全ての施設を対象とし、それを5段階のランキング評価に分け、施設の集約・複合化、存続、賃貸、売却、廃止等について、第三者委員会(自治体外の学識経験者7名、公募者2名等)の協議を経て、施設のありかた計画を策定、それに沿って施設の総量縮減等の実施を進めた結果、管理運営費等の削減にも大きな効果を上げています。

こうしてみると、わが町のやりかたでは、そこに到るにまですべてかかるとはわからない状況です。(弓削)濱田 高嘉

ワトスン発行係より
ワトスン創刊号はいかがでしたでしょうか？
世はコロナ禍のみならず、あらゆることか大ロシアが隣国、それもソ連時代は友邦、に戦争をししかけるなど、カンボジアにつき国民を不幸に突き落とすことを敢えて行う権力者の傲慢を見聞するにつけ、人間という生き物の業の深さを思わざるを得ません。
武威を張り、国民が平和に生きることに背を向けるような権力者を戴かないためには、我々の日頃のものの考え方が大切なのだとしみじみ思うところです。

月例会から
開催：2022年1月22日
●月例会での決定事項
①機関紙名を「ワトスン君」→「ワトスン」に変更。
②紙面サイズ：2700mm×900mm、両面印刷。
③機関紙は各島でメンバーによる手配り。創刊号はその試行となる旨の共有。
●特に持ち寄りテーマがあったので、「学校の統廃合問題」、「長江フェリー廃止と町民の利便性問題」、「弓削高に高齢者の聴講制度が設けられないか」などのついて意見交換をした。

東寺領塩の荘園 弓削島荘

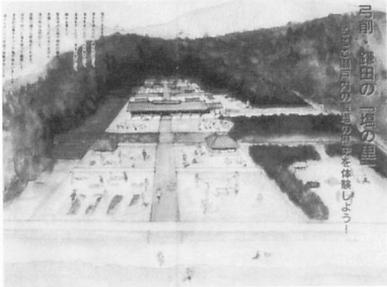
弓削島荘遺跡国史跡指定 あらためて「弓削島・塩の里」づくりに挑戦しよう

東寺百合文書に記されている中世の記憶遺産「塩の荘園」及び「弓削島荘遺跡」は、ユネスコ世界記憶遺産登録・国史跡指定となり、世界に誇れる歴史的財産が誕生し、誠に喜ばしい限りであると同時に我々には、後世に継承する大きな責務が課せられたこととなった。

世界中の歴史を顧みると、全てにおいてその時代の人たちが確たる証を残しており、人類の根拠となっている。

上島町においても同様、町民一丸となつて町史に何らかの証を記さなければならぬ。ささやかではあるがそれらの啓発継承活動を十数年来行っている民間団体もあるが、大きな波とはなっていない現状である。

町にあつては、令和四年度に行政主導で政策形成の意向を示しており、その取り組みを注目するところであるが、平成十六年三月に策定された、日本の塩の歴史のイニシアチブをも担うべく「弓削島・塩の里構想」を再度精査され先人の知恵を参考にしつつも上島町独自の魅力ある塩の里の姿を創出されるよう大いに期待する。(弓削)村上知貴



▲写真説明 平成十六年、旧弓削町時代に策定された塩の里構想のイメージ図。

上島町発の、住民自治を目指す 上昇会という仕組みを

この度は、会報「ワトスン」をお届けいただきまして、ありがとうございました。興味深く拝見致しました。日頃の関心に共鳴しましたのでお手紙を差し上げました。

コロナウイルスのパンデミックと東京五輪の試練に遭遇して、日本の民主主義の脆弱性が露わになり、今やアメリカの民主主義も瓦解の危機に瀕しています。日本の民主主義を、真の民主主義に建て直す好機ではないかと考えています。小生が辿り着いたひとつの試案が「上昇会」という考え方です。下記にその骨子を述べさせていただきます。

「上昇会」の提案。個人の上あわせを基軸とする

民主主義は、地域の生活の中で完結する。定期的に関われる地域の集まりの中で話題となる個々の生活の問題点。そこでの論点が区長会に上げられる。区長会の論議を町議会に上げる。

オピニオン
オブザピープル
読者投稿欄

「上昇会」は住民の声を上に上げる組織で、戦前のようにお上の意向を下に伝える機関ではない。

いま議員を選んだ町民は、町議会に余り関心がない。県議会

も市町村議会に関心がない。そこを改め、「上昇会」規定により、町議会にも県議会にも「上昇会で論議された事を審議する義務がある」。国会も「上昇会規定」によって県議会で審議された議案を審議すること」「学校にはじめ相談員を置くこと」という法律が出来たとすれば、岩城の小さな子供の意見が国の法律を変えたことになり、小さな命が救われ、「次の選挙は投票に行こう」ということになる。一気に変化することは難しいが、議論し話し合うことで変化する。論争や対立を性急な強権的採決で決済してはならない。あるプロジェクトに取り組むときにひとと輝く。自治研の皆様のご活躍を期待しております。(岩城・夏坂周司)



2022年(令和4年)4月
第3号
 発行: 上島町自治研究会
 〒7942506 越智郡上島町下月削 515 番地
 NPO 法人・頼れるふるさとネット気付
 TEL 090-8247-5279 (平山和昭)
 Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋
 ●目的
 ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 ●活動
 ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 ③会は定期的に自治研究会を開催する。
 ※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
 ●入会/退会
 ④入退会には特に条件を定めない。

上島町公共施設等あり方検討協議会
 協議会の使命と課題について(2)

前号の記事では、町が保有する266の建築系公共施設等の総量縮減、経費削減に取組む一部分の進捗状況の報告でした。今回は難問の核心部分を明らかにします。

平成28年3月末までに収集した各種事業計画、台帳データ及び庁内関係所管部門への調査を踏まえて町が作成した「上島町公共施設等総合管理計画」。この計画書には、健全化判断比率と資金不足比率では表面化されなかった問題率は表面化されてくる多額の財政負担や老朽化したインフラ整備とハコモノ維持管理にかか

る莫大な経費の問題が明確に指摘報告されています。それによると公共施設(ハコモノ)の総延床面積は町民一人当たり16.6、49㎡で、この広さは愛媛県の2倍、全国平均の4倍という事実。また多くの施設を抱える現状と人口の減少、厳しい財政状況等を踏まえつつ、持続可能なまちづくりを実現するためには、今後40年間の更新費用が総額64.7億円で、年平均1.7億円という事実です。この事実から言えることは、岩城橋の開通を契機として、従来の旧町村単位を基準とした施設配置を見直し、施設の集約



▲ 2022年3月20日開通の岩城橋を渡り初めする町民達

買い物難民対策考(2)

前号の記事で、買い物難民にあってゆく人々への対応について、行政の力も必要と述べました。実際に、民間の力に期待はするものの、なにかもがボランティアというわけにはゆかないので、利益になることはして欲しくないが採算に合わないことは期待しても難しいものです。ですので、そこを補ってゆくのが行政の役割だと考えます。現に魚島地区においても、商店が無くなった時に、あるしまおこし協力隊員の若者に商店を運営してもらったことがありました。しかし残念ながら長くは続かず島を去ってゆきました。そして現在は漁業組合にお願いしていると聞いています。



▲ 因島生協の展開している移動販売車活動

このような、どうやっても利益の見込めないような地域には、町の税金の投入もやむを負えないのは確かですが、地域の人々の、それを支える協力も不可欠かと思えます。

持たない人も多くいるのも確かです。比較的近い隣の因島田熊のハローズへの買い物船や買い物乗り合いバスなど、中々採算的に難しそうですけど、不自由な島の生活を少しでも明るく豊かにするような方法を考え、支援していくことが、行政に求められるところかと思えます。

又、町民の中にはこんなニーズがありますよとか、こんなことをすれば助かりますよなどのアイデアをお持ちの方もいらっしゃると思います。そういう皆さんからのご意見を頂けたらいいなと思います。(生名・ワトソン区)

「上昇会」という視点

ワトソンへの読者からのご意見欄「オピニオン」。第2号に掲載された夏坂周司さんのご意見がとても心に響きました。「上昇会」という取り組み。それを実現できたら、それこそが住民自治です。

上昇会を実現する方法を考えてみると、誰もが意見を言え、だれもが参加できる形づくりです。まずはひとりひとりの意見がだせること。今の時代だからネットを利用しましょう。メールかLINEか、それ以外にもご意見箱を設置し投書も受け付け。それを一定期間で締め切り、まとめてネットとか掲示板などで情報提供し、共有する。

議会のように住民定例会を開き意見を集約。これも参加できない人のためにネット参加やネット配信などで、できるだけ多くの人に参加していただけるようにしましょう。その後、区長会などでさらに協議。この協議会も傍聴などにしてネット配信もしましょう。そして、最終的に議会や行政に提案する。この流れなら、仕組みができればやれそうです。逆も考えられます。行政や議会側から、住民に説明する場も持たす人が必要です。

岩城橋も開通し、上島町の主な有人島がつながりました。これを機会にみんなが苦難も乗り越える体制づくりを目指したいですね。(岩城・大西幸江)

商船昔物語 松下邦幸

昔の商船寮生活(3)
 一高専昇格以前の全寮制時代一
 送がかかる少し前に目を覚ましている私は、毛布の中で、足元の方に畳んでおいた白い上下のセーラージャンパーを音が出ないようにそーっと着用するのである。さらに、白い布製の戦闘帽を被り、あごのまを掛けおく。そのまま総員起こしの放送があるまでベッドの中で寝たふりをしておく。

連載

朝6時「総員起こし、総員起こし」「たたむ毛布は20秒、降りる階段2段飛び、顔を洗って空見れば、感慨無量の朝ぼらけ」。この後はもう戦場である。ズボンの裾をすねの上までまくり上げたたら一直線でグラウンドの定位置に部屋毎に集合する。当時の1年生は、真冬でも裸足であった。各部屋の最上級生(室長)が(室員)の現状を週番生徒又は当直教官(舎監)に報告する。「東寮12号室総員4名、現在員4名、異状ありません!!」「よし!!」「体操隊形に開け!!」「天突体操始め!!」足を大きく開いて、中腰になり両手を上に揚げる単純な体操で、狭い船内のような場所でも出来る。全体を2つのグループに分けて、呼応させる。「大声で、ヨイッサー、ター」と繰り返すのみの体操であるが、15分も力を入れてやると汗が出てくる。



▲ 当時の総員起こし風景 弓削商船学校 80年史より

点検後に朝掃除にかかる。7時45分〜8時15分までの30分間の強制自習が入った。昼休みは寮内で3分程であった。昼休みは寮内に立入ることが禁止されていたので白砂青松の本館校舎の近くで、それぞれに自由な時間が流れていく。私はこの時広いグラウンドを独り占めにし、草の上を流れる白い雲をぼんやりと眺めているのが一番好きだった。

「長い日課に疲れ果て、広い校庭ちょっと歩きや、当面生徒に怒鳴られて駆け足はじめの砂けむり」
 歌集商船学校十ヶ条より(つづ)

「上島町里親の街」づくり

—少子化対策と社会貢献—

都会からUターンで里帰りし四年目にして、改めて気が付いた田舎暮らしのすばらしさ。ぜひ田舎で孫と一緒に暮らせたら、思うようになりました。

娘と一緒に暮らせないかと打診したところ、今生活が苦しいから子どもを養護施設に預けたままになっているが、早く引取りたい。しかし児童相談所が介在しているのでなかなか引取りの許可が出ないという悩みを打ち明けられました。

こうした場合、早く引取りする方法として里親制度の活用があります。里親制度とは、

- ① 養育里親
- ② 専門里親
- ③ 養子縁組里親

- ④ 親族里親
- ⑤ 週末里親

などがあり。施設で暮らす子供を月二回、週末やお盆、夏休み・お正月、冬休み等に親に代わって養育する事で、子どもたちが家庭で過ごせることのできるボランティア活動です

①～④迄は養育補助もあります、いま養護施設の入所児童は全国で三万三千人。うち里親委託五三八二人となっており、里親委託は国として増やしていく方針です。そこで私は【わが街い・き・い・き】をスローガンに、自らの体験をもとに最初は一人からでもよいので里親活動に取り組み、【ゆめしまっこ】を育てていきたいと願っています。

- * 都会の孫に田舎体験させたい
- * 子供が欲しい、触れ合いたい
- * 養育のための資格を取りたい
- * 養育資格がないが、地元で養育活動には協力したい
- * おじい、おばあ食堂で夕食作

〈ゆめしまっこ物語〉



りの協力、新鮮野菜、魚介を提供
* 共稼ぎで子育てが難しい家庭などに対応しながら、ゆくゆくは小規模養護施設の設立につなげたいと考えます。

里親には児童の養育についての理解および熱意や、児童に対する深い愛情を有していることなどが求められ、委託条件審査も厳しいですが、血のつながりがなくても児童に愛情をかけてくれる里親さんの存在は、子どもたちが人として育つのにとても大事です。むろん町当局や町民の皆様のご理解とご協力が不可欠なのは申すまでもありません。

この活動が広がり、町の少子化対策、空き家対策、観光対策、就農、就職対策等と連携することができれば、上島町【里親の街創り】が成功するでしょう。関心ある方々との集いもつくり、一步一步進めたいと思います。ぜひご連絡をいただければ幸いです。

(岩城・岡田賢二)

●連絡先 090・1245・0505

幻?の人口減歯止め策

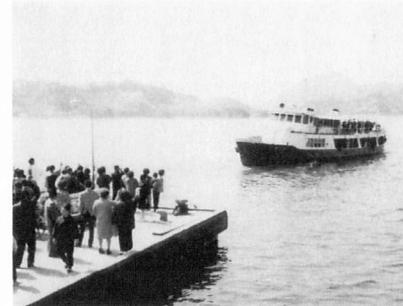
知人から戴いた本の題名は「航跡」。海に活きた船乗りの思い出集。という山下新日本汽船海上OB会の本でした。

弓削島には大勢の船乗りが居ましたが、わけても山下新日本の会社には弓削に籍を置く乗り組み員が沢山居ました。ページを捲りながら、造船と海運の元氣な時代を思い浮かべました。

弓削商船学校のあつたお陰で弓削島には沢山の船乗りが居ましたが、残念ながら現在、「父ちゃんも船乗りです」という子供さんが何人居るの当時の商船学校では、航海訓練所の船で実習航海から帰ると、学生は海技免状取得のため民家に下宿して猛勉強。国科試験を受けて甲種〇免状を取得してました。娘さんの居る下宿、近くに娘さんが居る下宿。逢えば当然挨拶、会話。親しくなると食べ物、差し入れもあつたらうと思ひます。

アツプさんアツプさんと呼ばれ、免状を取得し船乗りになれば将来の船長、機関長です。娘さんとの愛が芽生えれば、親にとつてそれはもう将来が楽しみな話ではないでしょう。

島外からの弓削商船卒業の生徒さんと結ばれたカップルがどのくらい居るかは知りませんが、私の近くには何人も住んで居ます。



会社から乗船命令が来ると隣近所に、乗船しますので留守をお願いします。下船すると土産を持参し、只今帰りましたの挨拶もあり、隣近所さんを大事にする時代でした。今思うと、単身赴任の先駆けは船乗りだと思ひます。

▲写真説明 当時は乗船となる、近隣の人々までもが、こぞつて港で見送ったものだった。

続・弓削島遺跡 建造物等の国指定遺跡の意味

「国指定史跡」とは、文化財保護法または条例によつて歴史上、学術上価値の高いもので、このうち特に価値の高いものは国の史跡に指定され、人類の活動を示す痕跡(遺構・遺物)を認めうる場所、あるいは由緒のある場所をさす。貝塚、住居跡、古墳、城跡、社寺跡、藩宅、文庫、関跡、墳墓、碑、旧宅、園池など定義されている。

この度、弓削島遺跡が国が指定した史跡7箇所は、日本の歴史の正しい理解に欠くことができない学術上価値ある場所である。

現在の社寺のエリアは、久司浦地区の東泉寺は百合文書には「薬師寺」。上弓削地区の高浜八幡神社は「八幡宮」。おなじく願成寺は「願成寺」。下弓削浜都地区の弓削神社は「弓削宮」。同じく土生地区の定光寺観音堂は、弓削島荘が百合文書に記載された最後の年(寛政4年・1463年)に建立されたものと考えられており、現・百貫島は、百合文書には「辺屋路(へんやろ)小島の名で登場。

今後について専門家は「文化財保護法が改正され、遺跡の保護と整備に加え活用が求められている。史跡指定はゴールではなく始まりであり、将来へ向け継続的な取り組みが必要」と提唱している。

この度の弓削島遺跡「国史跡指定」は、全国的に希なケースであることは言うまでもないことである反面、期待と羨望の眼差しで注目を浴びている。しまなみ海道沿線における塩の歴史・文化体験ゾーンの創造へ向け、弓削島塩の荘園の歴史の継承・発展に町を挙げて取り組む必要がある。

(弓削・村上知貴)

月例会から

開催：2022年2月26日・土
会場：消防庁舎2F小会議室
●機関紙発行について協議。
メンバーによる配布部数割当。
発行部数、回数については次回に最終決定する。
●ワトスン記事につき、校正と次号の記事担当と分量の告知。
●参加者による話題提供。
・里親制度の活用提案＝少子化対策の一環としての取り組み。
・書籍紹介「ウニと共生生物」著者は生名の人を祖父母に持つ研究者で、子供の頃の夏休み田舎体験が研究者になる源泉になったという山守瑠奈さん。
・県立弓削高校の学寮新築につき拙速との意見が出された。
・議員定数削減につき意見交換。議会の現状だと削減による議会の質の低下のほうがちろ心配だとの意見がだされた。



自治研究会報

ワトスン

地域のこれからを
考える

2022年(令和4年)5月
第4号

発行: 上島町自治研究会
〒7942506 越智郡上島町下弓削 515 番地
NPO 法人・頼れるふるさとネットワーク
Tel. 090-8247-5279 (平山)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを活動とする。
- 活動
- ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探求し、安心して暮らせる町作りを寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
- ※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
- 入会/退会
- ④入退会には特に条件を定めない。

県立弓削高校を永続させるためには 入り口論より出口論



令和4年、桜満開の県立弓削高等学校入り口

現在、学生数減少による存続危機にある弓削高校の為に学生寮の建設の話が進められている。しかし「弓削高校の存続は本当に必要なのか?」と言う、そもそも論ほどの程度議論されたのでしょうか?

町民に弓削高校の存続可否を聞けば、おそらく多くの人があつたほうが良いと答えるでしょう。しかし、存続させるにはこのような条件と費用がかかり、このような事が考え

られます、と言うような説明が十分されたのでしょうか。無いよりあつたほうが良いとの二者択一だけで、話が進んでいないのでしょうか?

数年前にも学生数減少による存続危機が持ち上がり、学校魅力化計画で県立高校に町負担で公営塾を設置しました。現実はこの町の中学3年生がみな弓削高校に進学してくれても存続回避人数確保は厳しい。そこで全国募集し生徒を

集めようとなり、それらの効果もあつてか、とりあえずは廃校や統合の危機は先延ばしにできました。では次に学生寮を作れば本当に全国から多くの学生が来て存続の危機が回避されるのか? 回避されたとして何年くらいそれがもつのか? こうした疑念が、どうして生じるのでしょうか。

それはつまり、こういうことではないでしょうか。これまで入り口論(入学人数確保)の論議ばかりで、出口像(卒業した学生の、その先がどうか)の論議が見えてこない。

いま公営塾には様々なキャリアの講師が、学生の能力アップに必死に取り組んでおられる。そういう尊い努力がどういう出口を目指して成されているのか。

実はこのことこそが、学校の存続に、町民と行政、そして利用者が一丸となるために最初に掲げていなければならなかった「出口像」だったのではないのでしょうか。

(生名) ワトソン K

弓削高を県立校に導いた先人の想い 生徒諸君は大いに勉強してほしい

県立弓削高校に思う。

家族3人が卒業させていた。だき改めて感謝致します。中学を卒業すれば成績優秀な子の一部は島外の進学校へ、男子は商船に、他の生徒は弓削高へが定番で準義務教育の感じでした。その弓削高校がいま定員確保に四苦八苦。まさかまさかになり、行政が弓削高校存続の為の寮を計画しました。

少子高齢化の流れのなかで中学卒業生は金の卵です。どここの高校も喉から手が出る程欲しい生徒様です。定時制から全日制に移行する昭和30年代、行政と地域ぐるみで汗を流し知恵を絞りに「百年の大計は教育をほかにしては無い。いかなる犠牲を

払ってでも県立弓削高校を設立しよう」でした。

この決意は、明治時代に弓削村民が弓削商船学校を誘致した英断が、海運造船で潤う弓削島となった事と同じでした。当時、僅か7000人余りの小さな島に国立と県立の学校がある島がどこにあるでしょう。お陰様で70年間苦勞せずして自宅から通える高校でした。が、少子高齢化と言う大時化に悪戦苦闘の状況となりました。

今治島嶼部の伯方分校、大三島分校も今治市が存続に力を入れた記事が載っています。人口減少の地域の高校が、生徒の確保が無理となれば閉校に追い込まれる現実には、何とか存続を考えるのはどこも

同じでしょう。

では仮に先の2校と弓削高校の3校で生き残りを目指して競うことになれば弓削高校の売りとする魅力はなんなのでしょう? 進学で勝負ができる学校は魅力だと思えます。

昭和33年の弓削広報に『生徒諸君には大いに勉強して暮らして、県下の有名校となる日を夢見ている。この夢がまさか夢であつて欲しい。そうなるにつれて嬉しいうのだが』と書いていた方が居ました。

70年間余り温室でぬくぬく育ったツケが、少子高齢化と言う大時化となり、厳しい現実になったかなと考えを巡らすところ。吉とどるか凶とどるか。 (弓削) 浜村寿

商船昔物語 松下邦幸

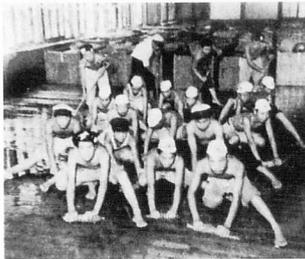
昔の商船寮生活(4) 最終回
—高専昇格以前の全寮制時代—

連載

(室員)の現状を当直教官(舎監)に報告する。この点検後は22時の巡検までは、強制自習時間に入る。途中で、30分間は八点鐘が鳴り響き、20分間の中休みとなる。中休みの時間だけ開店するPX(売店)があった。駄菓子や、ジュースなどを、購入することが可能であった。

八点鐘は鐘を8つ、リズムカルに打って船内に時を知らせるものであり、昔の船の世界では、当直終了、次直者と交代の合図でもあったと聴かされていた。『カンカン♪カンカン♪』

この鐘の音はその後、何十年経ても脳裏に焼き付いている。やがて22時の巡検点呼を受けてからベッドに入った。22時30分消灯後は当直舎監が、生徒が寝ているかどうか、長い懐中電灯を持って寮内居室の巡回点検するのが常であった。



●弓削商船学校時代恒例のタンツー(床磨き)風景

消灯後のスタンドの灯りや常夜灯下の灯りで、勉強などをしているも大目に見てくれる舎監の個人行動は、一切許されておらず、教育の一環とはいへ、恐らく今では大きな人権侵害に当たるのだろう。しかし、この様な特殊な環境の中で過ごした本科の3年間は、私にとって大変貴重な経験となった。卒業後の実社会(船乗り)としてあらゆる困難に立ち向かい戦い抜く気概を育成してくれたように思う。『巡検廻るは訓育官、電気消えればヒソヒソと故郷の話や何やかや、皆でかかず如何にこれ』

歌集商船学校十ヶ条より (おわり) ※写真は、弓削商船学校八十年史より

最近気になること



①「温泉はどこですか」

弓削大橋を渡ってきた車の人に聞かれた。温泉? そんなのあったっけ。昔、名乗っていたフェスパかな! と思って道順を伝えたが、がっかりしなかったのだろうか。大阪ナンバーだった。

②「小学生の思い知りたい」

いまだきの小学生は、世のこのことをよく知っている。ゲームやマンガも好きだけど、新聞は読むしテレビも見る。スマホやインターネットもやっているかもしれないから大人と変わらない。しかし一番のちがいは、これからの人生がはるかに長いことだ。

遠い国とはいいいながら、いま世界中を巻き込んでいる戦争は、その結果が彼らの歴史に延々と残るはず。どんな思いでいるのだろう。(町内某&某)

現在、県立弓削高等学校の魅力化プロジェクトとして多くの予算が計上されている。町費による教室へのエアコンの設置に始まり、公営塾開設、町外からの通学費の補助、学校給食の提供、下宿生への補助。そして、今年度は、学生寮を建設するための予算まで計上している。

上島町教育委員会は、平成18年12月、上島町弓削中学校統廃合問題に、生名中と弓削中の統合につき諮問され、16名の審議会委員の一人として将来の小中学校の統廃合を見据えた適正な学校教育環境につき慎重に審議を重ね、平成20年4月1日に生名中を弓削中に統合することに決まりました。

その審議会では、学校統合で生じるメリット・デメリットについて関連な議論が交わされ、主なメリットは「教育的な観点」から、児童が集団の中で多様な考えに触れ、協力し合い切磋琢磨することで一人ひとりの資質や能力を伸ばし、児童集団を確保でき、経験年数、専門性、男女比等のバランスのとれた教職員集団から教育が受けられる、とされました。

上島町小中学校統廃合問題 堂々巡りに陥っていないか

子どもにお金をかけることはよいことだとは思っている。でもどのようにお金をかけていくかは、よく考えないといけない。

弓削高校魅力化プロジェクトのありかたとは?

日本全体が少子高齢化。どの高校も定員割れが当たり前になってきており、入学者の奪い合いが起きている。その中で選んでもらうためには、経済的負担の軽減や環境整備も大事だが、やっぱり魅力的なカリキュラムが必要だろう。それと同時に、留学生ばかりの地元高校では意味がなく、地元小中学生の育成も大事だし、少子化に歯止めをかけることも大事だと思う。

そもそも高校を残す理由は、地元の子どものためであったはず。地元の子どものためではない地元高校にならないためには、高校の中身の充実とともに、少子化に歯止めをかけ、上島町としてどんな子育てや教育の将来像を描いていくのかを考える時期に来ていると思う。(岩城 大西幸江)



交流の場等の機能が失われる恐れと、まちづくりの在り方にも影響を及ぼす、などと考え、地域社会が抱える共通課題が浮き彫りになり、地域との対話の必要性と配慮に最善を尽くす姿勢が求められました。この度、岩城橋開通に伴い、町内の小中学校の再統廃合に取組む時期が到来したのか、新たに「上島町学校の在り方検討委員会」が令和3年11月に設置され、児童生徒数の推移を踏まえ、将来を展望した学校の在り方について、幅広い見地から

検討し、方向性を見出すためにこれまで3回の検討委員会が開催されてきて、その3回目の会議結果がホームページ公開されています。それを見るとまだこのメリット、デメリットに類することが話しあわれてい

学校の存続問題は時代の趨勢 維持には地域の覚悟が試される

高校の統廃合についてですが、北海道立高校は炭坑閉山で人口減が進む市町村の高校を中心に、今までにかなりの高校が統合されています。全日制は、1学年が1クラスだけになって入学者が3年間続いたら廃校の対の目安になります。

私が最初に勤務した厚岸潮見高校(普通科のみ)は、平成22年度をもって厚岸水産高校と統合されて、現在は新設校の厚岸翔洋高校(普通科1クラスと水産科1クラス)になっていて、定員割れをしており、こぢんまりとした高校になっているようです。中学卒業の生徒数の減少はもちろんのこと、厚岸町は昭和時代

は2万人近くいた人口が今は9千人しかいなくて、釧路市まで約1時間で通学出来ることもあり、1つの町に2つの高校の存続は厳しいです。私が3校目に勤務した留萌高校(普通科のみ)も、留萌千望高校(商業科1クラスと工業科1クラス)と統合しました。統合した高校名が留萌高校にしたため、来年度創立百年を迎えます。私が平成5年度に赴任した時の留萌市の人口は3万2千人でしたが、今は約2万人です。隣の増毛高校は廃校になりました。増毛町の生徒は30分ほどの通学時間で留萌高校に通っています。留萌市内の小中学校から札幌市等の高校に進学する生徒はかなり

いますが他の地区から留萌高校に進学する生徒はほとんどいません。道南の奥尻島の奥尻高校は、6年前に北海道立高校から奥尻町立高校に移管になりました。町立高校の廃校の基準は町独自の

ある町立高等学校のこと



で、これで廃校になる心配はないとのこと。また道北の羽幌町天売島の北海道立天売高校は、全校生徒が十数人ですが、定時制のため廃校にはなりません。定時制は4年

間ですが現在は卒業に必要な単位を取得出来れば3年間で卒業出来ます。漁業で忙しい時期は、生徒が手伝いで登校しない学年は授業がないそうです。札幌市の中学校から留学する生徒が数人いて、下宿しています。下宿で協力して下さる家庭に支えられています。

その地域の事情にもよるとは思いますが、高校の統廃合は過疎化に拍車がかかる原因にもなったり統合されたら無念なのは分かりますが、中学校卒業の生徒数の減少は明らかですし、高校の統廃合はやむを得ないというのが私の考えですが、離島の町にどうしても高校を残したいと覚悟を持って臨むのなら、町立高校という選択肢もある事例です。(札幌市 上北公司)

月例生名中

開催日時: 令和4年3月26日(土) 14時~16時
開催場所: 弓削せとうち交流館
内容: 持ち寄り話題と意見交換
「県立弓削高等学校への今年度教育予算と事業内容」等。
主に公営塾関連予算と公営塾のあり方について。

コラムへの投稿募集

ワトソンの「オピニオン」や「最近気になること」に、読者からの投稿を募集中です。前者は文章量500字前後、後者は300字前後。編集の都合で分量調整が発生します。投稿方法: 可能ななら電子メールでの投稿。手書きでも可。投稿者の連絡先の明示(メールアドレス、電話番号、住所氏名等)を御願います。(ワトソン編集係)



2022年6月 (令和4年) 第5号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下町515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 TEL 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
- ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
- 入会/退会
- ④入退会には特に条件を定めない。

お知らせ伝わっていますか？ 町の情報周知は 問題ないですか

「いざ」というとき、身近に信頼できる人がいると、とても心強いものです。何気ないご近所付き合いや、防犯・防災・環境美化など、地域の身近な問題に取り組んでいる町会・自治会活動に参加することは、毎日の生活にも安全・安心をもたらします。

住みよいまちづくりに参加するきっかけとして、地域の絆を深める町会・自治会で気軽にコミュニケーションを！様々な行政からの、あるいは自治会からの「お知らせ」の放送は伝わっていますか？



上島町ではその「お知らせ」が回覧板や有線放送から、携帯・街頭スピーカー放送での伝達に変わりつつあります。聞き漏らしたり、聞こえなかった事は有りませんか？

体が不自由な方で、近所の方や地区の方に相談出来てますか？

携帯で「お知らせ」を聞く操作がわからない等困っている方は、地区長さんなどを通じて対処を考えられたらいいでしょうか。

そういう困りごとが表に出てこなければ、行政にしろ自治会にしろ問題の存在自体が把握できません。

声をあげること、これとても大事だと思います。もちろん声を聞く場を多く設けることも。

(岩城・岡田賢二)

防災無線で一番大事なことは？

新たな報知システムの課題

4月から新しい防災無線の運用が始まりました。防災無線の運用変更に関しては、よく苦情をいただきます。「個別端末がもらえない」とか「アプリの使い方がわからない」など、それぞれの立場の方が、それぞれの理由で困っています。理由を聞けば、なるほどということも多いです。

基本的には、防災無線ということからは、災害の時に役に立たなければ意味がありません。そのため、日ごろから利用して常に見える状況であることを確認する必要があります。日ごろの行政からのお知らせが毎日の機器の確認であり、放送が住民にどれくらい伝わるかの検証だったはずですが、今回の放送は、個別端末からの音声のお知らせはあるものの放送は1回のみ。アプリの文字放送も同様です。毎日放送はありません。個別端末はもらえない。アプリの利用がうまくいっていないとなるとまったく情報が入りません。逆に、住民が放送をしてお知らせしたい場合は、簡単に放送できません。屋外放送のみなので、アプリには配信されませんから、リアルタイムに聞く以外情報を取る方法はありません。

こんな話も聞きました。5月

防災無線で一番大事なことは、上島町にいる人全員に情報を知らせることです。

様々な条件の人がいます。その人たちにまんべんなく知らせるためには、新しい方法を試していくことだと思います。個別端末が欲しい人には、できるだけ配布。携帯も登録してもらって、携帯も活用する講座なども設けながら、浸透させていく。住民に対しては、そういう丁寧さが必要ではないでしょうか。(岩城・大西幸江)



▶防災アプリの設定説明を受ける防災避難訓練の参加者(岩城地区)

旧弓削商船学校 昔物語 その2



— 学校設立功労者 —
初代弓削校長 中村晴二郎

弓削商船学校OBの松下邦幸氏による「商船昔物語」の連載が終わった。学校も学生・生徒も時代と共に変化する時代の子である。では現代から見れば昔の教育はどうだったのか。人権侵害が多かったのか？。そうとも、そうでもないとも言える。そのあたりの論議も含め連載が続いて欲しかったと、あちこちで聞く。

ところでその商船学校、なぜ瀬戸内の小さな島の寒村で開設できたのか。その立役者は？。筆者はかつて発行していた「弓削通信」で、それにつき少し詳しく書いたが(2014年9月号)、あまり知られていないらしいそのことを、改めて連載で再掲してみたい。その理由は、為政者の質によって、その行政実績は、歴史に残るものになったり、歴史的事実による。歴史的な事物は「書かれたもの」しか残らない。今の世であればデータ化とか、アーカイブとか言われたりするが、知識が脳に満載されてはいても、それが紙なりなんなりに出力されていなければ脳が滅失したときその膨大な知識の蓄積も消滅する。そうなれば後日の参考の用にも立たない。



弓削校長 中村晴二郎氏

その意味でも、現在の国立弓削商船高等専門学校の前身、「組合立弓削海員学校」の来歴が、あちこちで書き残されていることは、一種奇跡に近いと考えている。

筆者にあっては、それがどこにあるかぐらいしか提示することはできないが、その在り処さえわかっているならば、関心のある方は訪ねる事ができるはず。ぜひ跡をたどっていただけたら面白いのではないかと。(つづく)

(文責・弓削・平山和昭)

最近きになること



①

これ以上増やしてはダメ!

町の健診で医師に言われた。昨年のデータみながら「身長は同じなのに3キロも増えてる。

これは良くないですよ。きっとこの後に「このお年なんですから」が隠されているはず。気づいているんですよ。

飯はうまいし毎度のおやつ。だからって、歩け歩けは苦手。さてどうするかおやつ時間に考えよう。

②

優待回数券が年間1冊に

75才以上の町営立石フェリーの回数券が、特別の事情がない限り1冊(60回分)に制限されることになった。今まで重宝していた因島土生の生協も近い将来閉店するらしい。

さて買い物は弓削に行こうか岩城に行こうか。バス頼みだ。そういえば弓削の生協も閉店するとか聞くけど?

(町内・某&某)

私の商船物語

連載「昔の商船寮生活」を読んで

「商船昔物語」が第4号で最終回。標記の連載が綴りました。昔々の弓削商船を知る者にとっては残念です。楽しく読ませていただきました。

私の思い出す1ページは、商船学校に大相撲の巡業がやって来たことです。69連勝の天下の大横綱双葉山が引退し、時津風部屋を継承され、一門の力士を連れて来島しました。主な力士は鏡里、大内山、若葉山、不動岩等々、年配の方なら思い出すことでしょう。確か小学1年か2年のときでした。友人の親戚の家に鏡里が宿泊するので見に行こうでした。近くで見える太鼓腹の鏡里の大きさにビックリ仰天だったことが今で

も思い出されます。一行のなかになら若葉山が居ました。そうなんです。春場所、高安関を優勝決定戦で破った関脇の若隆景関が初優勝した記憶は新しいですが、兄弟3人が関取でお父さ

オピニオン

オブザピープル

読者投稿欄

んも相撲取りでした。そのお祖父さんが若葉山関なのです。8日から夏場所が始まります。大いに土俵を盛り上げてくれることでしょう。

話ついでに当時弓削商船の相撲部の学生で稽古をされた方が弓削島に元気で居ます。その後弓削中の生徒が、横綱を目指して角界入りをされた方も居ました。70年程前の懐かしい驚きの巡業でした。当時は商船学校と地域が一对の感があり、台風が来るので漁船を砂浜に引き上げる協力をお願いしたり、桜の季節には校庭での花見宴会を許し、大勢の住民が賑やかに飲めや歌えでした。運動場にはセメントで出来た帆船があり、良く遊んだ記憶があります。

弓削島は商船学校のお蔭で七つの海に羽ばたく船乗りの島でした、感謝の一語。

(弓削・八十路の男)

今までの情報伝達システムが老朽化してきた事や世の中のデジタル化が進んできた事などに伴い、今回、上島町の情報伝達方法が変更されました。多くの人が所持しているスマホや携帯電話を利用した

様変わりした 住民への情報伝達方法

送受信という方法にです。又、それらに対応できない住民には小型受信器を提供し、ほとんどの家庭で対応できるようにになると云う内容となっています。

前記の内容だけ見れば、本意したかどうかの確認は出来ているのでしょうか? 世の中は著しく変化しています。しかしその変化に付いていけない方も多くいるのも現実です。そんな中、先日、岩城で行われた議員有志と住

民との懇談会の記録を見せてもらったところ、住民の意見の中に、「スマホを持っていないが上手く設定が出来ないのか、いまだに使えていない。」以前の方法で何も困っていないから元の元に戻してほしい。」



など同じような意見が多くあり、心配していたことが現実のものとして存在することがわかりました。これは、今度新しいシステムに変えてから情報難民(弱者)が新たに生じたことを意味しています。当たり前なのですが、何事も行政が物事を行う時は住民に對し、事前にしっかりとした丁寧な説明と、事後には計

後期高齢者への情報伝達に思う

目も耳も、膝も脳も衰え、日々の生活に支障を来す年齢? テレビの音量が大きくなるチャイムが分からない高齢者夫婦、独居者、人様に迷惑をかける何とかならずお年寄り、行政からのお知らせや緊急時災害時の伝達は現状でいいのだろうか。

日頃が大切だと思えます。ぜひひびひ分りやすい簡単な伝達方法を考えていただきます事を、切にお願い致します。みなさん、いずれ来る道、通る道です。(弓削 濱村 寿)

災害時の 自助、公助? に、プラス近助。

使用慣れない高齢者の持つ携帯電話やスマートフォン等々は、島外に住む親子との安否確認の連絡手段で持つのではないのでしょうか。 「慣れば簡単ですよ。そうでしょうね。登録したもので大丈夫ですよ。」で、いざ使用する時に充電をしておき、利便性が良くてもいざの時に役立たず。便利なのは使いこなす人だけです。 「忘れた。めんどくさい。高齢者に、どのように情報伝達をするの?」の問いに、良く考え、知恵を絞ることをぜひお願いいたします。

月例会のお知らせ

開催日時: 令和4年3月26日(土) 14時~16時

開催場所: 弓削せとうち交流館

内容: 持ち寄り話題と意見交換

・住民と議員との座談会を開催しようと思つているが周知放

送が思うようにできない件。

・里親制度につき、北海道厚沢

町では幼稚園留学という取り組みをしている。上島町でも

政策として取り組めないのかという件。

・弓削の松原海水浴場全域につき行政より使用許可願いが出

たが、その後宗教法人(神社)サイドから出した条件につき

回答が出てこない件。

コラムへの投稿募集中

自治研機関紙ワトスンのコラム「オピニオン」や「最近きになること」に読者からの投稿を募集中です。

前者は文章量500字前後、

後者は300字前後。

但し紙面編集の都合で投稿趣

旨を損ねない範囲での分量調

整をさせていただきますことがあり

ります。

投稿方法: 可能ななら電子メー

ルで、手書きでも可です。

投稿者の連絡先の明示(メールアドレス、電話番号、住所

氏名等)を御願ひします。

(ワトスン編集係)



2022年7月 第6号
(令和4年)
発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
- 入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

急ぐべきは、緊急避難施設の十分な確保では？

去る5月29日(日曜日)朝8時に実施された上島町総合防災訓練に参加し、指定された緊急避難場所所地区一同に会した印象は、以前と違った快い風景に出会った。それは幼い子供の声と若夫婦達のあり様が五月晴れと相まって、和やかな集合となり、若夫婦達にも地域に学びながら災害に備えた幸せな生活が続くことを願うばかりです。

さて、総合防災訓練では、情報の収集伝達、避難誘導、初期対応、応急救護等と考えるが、

- 地区の防災訓練と言え、避難訓練と言っても過言ではなく、サイレンが鳴り各戸から家族全員が指定された緊急避難場所集合し、点呼、参加人数、地区情報等を本部に連絡し、地区長の避難訓練の講評を聞き、終了するのが常態化している。しかし、現実には厳しく、指定の緊急避難施設(場所)一つ取っても問題は山積している。
- 町は自然災害を
- ①地震、
 - ②津波、
 - ③台風高潮、
 - ④豪雨土砂と4つに分類し、

町内一斉清掃が行われたが県道の排水溝に草木が生えてる所も多い。



コロナ禍での3年振りの避難訓練でした。サイレンの音が優しく静かに聞こえたのは私だけでしょうか。住民の方々が目的の避難所に集まり始めました。私は終戦時3歳でしたので、防空頭巾を被され防空壕と隣家の床下にある芋坪に隠れた記憶と、家主の伯父さん

令和4年度上島町防災訓練に思う

- 一、住民に防災の危機意識をもってもらうには、3・11の東日本大震災と県の防災の日にはサイレンを鳴らして危機感を知らせる。
- 二、訓練の日は行政が決める点呼の後には、各地区長に任せ地区に応じた避難訓練を計画させる。
- 三、各地区の自主防災組織を地区住民で立ち上げ、地区の高齢者、独居者障がい者リストを作成し地区住民で共有する。
- 四、町で若い方の防災士や防災リーダーの育成も大事ですが、講師を招いて町独自の防災士を育成し、自分の住む地区で活躍してもらおう。
- 五、行政が決めた避難場所以外で障害者、高齢者の集まりやすい一時避難所を、地区独自で確保しては、と思えます。
- 六、町が保管する災害の備蓄品管理を各地区に任せ、消費期限の確認も地区にお願います。
- 七、火災時の初期消火を、火災備品格納庫のある近くの有志5人程で、火災時の初期活動のできる態勢を作る。
- 八、災害時断水した時、トイレの水確保に各個人の井戸水の利用と排水時の水の量を確認し、配管が詰まらない様にお願います。
- 九、緊急時、災害時含め各自必要な持ちだし物の整理整頓をしておくこと。



上弓削地区には15ヶ所、下弓削地区には21ヶ所、佐島地区には9ヶ所、計45ヶ所の緊急避難場所を決めているが、わが地区(太田)の避難施設は、②の津波、③の台風高潮だけに適応し、①の地震、④の豪雨土砂災害には適応できない施設である。

すべての自然災害等に適応する避難施設は、上弓削地区に2ヶ所、下弓削地区に2ヶ所、佐島地区に1ヶ所、計5ヶ所のみであることを認識すべきです。サイクリスト向けのトイレ整備も結構だが、自然災害に適応した緊急避難施設(場所)の整備にも取り組んで貰いたい。

(弓削・濱田 高嘉)

がガラス越しに因島上空の敵戦闘機の爆撃状況を、避難していた何人かに説明していたのを、子供ながらうつすらと覚えていました。避難した防空壕は、今でも通り道なので見ることができず。

防災訓練ではサイレンから20分程経過し地区住民の点呼です。残念ながら避難グッズ持参者は僅かでした。訓練終了後、責任者からカレ、クッキーのお接待を頂き解散でした。

緊急時含め日頃の【近助】とお付き合いが大切かと思えます。

ウクライナはロシアと近所ですが無念のサイレンが鳴り止むことを切望するところです。

コロナ禍の避難訓練へ会えて喜ぶ避難訓練

(弓削・浜村 寿)

旧弓削商船学校 昔物語り その2

— 学校設立功労者 —
初代弓削村長 中村晴二郎



何が初代弓削村長中村晴二郎の、商船学校創設への情熱を保持させたのだろうか？それが今号のテーマです。書き残された本人の言説があれば答えは出るでしょう。しかしそれは、今はないものねだり。しからば想像を逞しゅうして、他の書き残された文書類の行間から読み取るしかないのかもしれない。

中村晴二郎は、言うまでもなく現在の国立弓削商船高等専門学校の元をつくった人物です。明治32年、国にあつては実業学校令が發布され、国策として子弟の実業教育に踏み出すことになりました。



▲開校当時の校舎と陸帆船。陸帆船(陸上訓練用帆船マスト)は、東京商船学校大阪分校より譲り受けたもの。背景は石灰山。

当時の弓削村では村長晴二郎をはじめ村内有識者たちは、いかにすれば学校創設が実現可能かの検討を重ねていました。が、難題の一番は経費をどうするか。その後、明治33年8月1日、「海員補習学校設置に関する諮問の件」で臨時村議会が招集され、満場一致で可決。臨時席していた越智郡長の添え書きをもつて設置申請を県に提出。明治34年1月1日付の知事認可を得て学校設立への一歩を踏み出します。そのころまでに村民の理解が深まったと思えません。

(出典:弓削商船高等学校60年史、弓削町史、生名村史)

明治34年当時、弓削村出身の実地上がりの土官ならびに職長クラスの船員は、甲種船長13名ほか総計735名も居ました。その人達も国際的な深い視野から、郷里に船員養成学校を創設することに、一心に応援したのでした。それは決してひとりでの起こった動きではなかったはず。

(つづく)
(文責:弓削・平山和昭)

故郷の現状は、耕作放棄地の有効活用が求められている



私は都会から田舎に帰り、故郷の私を再発見しました。しかし、朝の散歩で発見したのは、浜辺に魚がいない、藻場がない、耕作放棄地が目について雑草だらけ。故郷が泣いている。知人に聞けば、下水処理施設ができて海の栄養分が減り、藻場や魚が減ったとのこと。

以前は肥しや有機肥料が使われていて、それが海に流れ栄養分となり、海藻や魚の栄養分になっていったという。今は人口減少により、農家の後継者も減り、耕作放棄地が増えていく。そんな中で橋ができ、生活環境も向上したようにも見える。

①耕作地拡大したい農家に農地を譲渡や貸与する。
②農地バンク制度づくり。
③町民農園という考え方。
④農業継続する人材育成。

例えば田舎暮らしを希望する人に住宅、畑付きで耕作指導するとか、体験田舎暮らし一週間コース・一カ月コースとか、レジャー農業・宿泊割引一泊二日コースとか。あるいは、都会の児童養護施設と提携し、春休み・夏休み田舎体験コース(児童の親割引招致、家庭の温かみ提供)とか、上島町、因島、瀬戸田等を拠点として「道の駅ネットワーク」を開設し、消費者との距離が近い産直販売と個人顧客への直送のほか生協、宅配事業者、小売店をはじめとした事業者向けに各商品の特産品を販売する。小規模事業オーナー募集制を創設しふるさと納税の納税返礼品に組み込む。

こうした制度と企業向け新企画でスポンサーを募り、営業形態としてはインターネット販売を促進する。すでに町で取り組まれている事業もあるとは思いますが。(岩城・岡田賢二)

空き家について

自治研究会の配布のため島中を歩いてみると、あまりにも空き家が多いのに改めてびっくりしています。

ここ生名島では40年ほど前の昭和55年当時、世帯数が950軒程度で人口は3100人程だった。現在の世帯数は百数十軒程度減少の810軒なのに人口は半分以下となっています。世帯数は名目上15%程の減少ですが、人口は55%以上減少しているのが実情。私の母親などの家も、住民票はそのまま施設にお世話になっており、住んでいるようで空き家となっています。同じよう

な家が他にも数多くあり、実際の空き家の実数は名目とかけ離れているような気がします。特に一目瞭然なのが公営住宅です。恵生(えなま)地区、西浦地区の公営住宅は比較的新しいのに空き家が

公営住宅・空き家にしない方策を

多く、全体的には廃墟のようなイメージすら感じます。公営住宅は低所得者にとってはお入居しやすいような料金体系になっていますが、少しでも収入が増えると割高になってしまいうので、因島などの安いアパートの方が負

担が少なく買い物など便利なので引越してしまうというケースもあるようです。税金で建てられた公営住宅、あれだけの空き室を何とか有効に活用できないものなのでしょうか。入居条件は法律に則って作られているのは解りますが、そのルールを実情に合わせて変更するのにも有りだと思いが成されな

(生名 ワトソン・K)



最近になること

①新聞の購あわせの見出し

・「ロ軍クラスター使用か」(クラスターとは、非人道的無差別殺傷兵器の名称です)
・「県内の学校でクラスターを確認」(この場合のクラスターは、感染集団の意味)
ある時期を境に新型コロナウイルスの感染について使われはじめた「クラスター」。毎日のことなので慣れっこになっていませんか? 両方ともおつかない。早く消えてほしい見出しです。

②横断歩道は手を上げて

子どもはそれを守っています。でも県は、「大人も手を上げよう」運動を始めています。ドライバーに、これから渡るぞアピールが、事故防止につながるかと考えましたか? とところが横断歩道を示す白線って、けっこう薄くなっているところ多いですね。常に黒白はつきりしていれば、それだけでもドライバーの注意喚起に役立つと思いますがねえ・・・。(町内某&某)

魚島のペッパーと人工親友(AF)クララ



魚島小・中学校に人型ロボット「ペッパー」がやってきました。6月12日の愛媛新聞に写真入りで大きく紹介されていた。島の小・中学生4人のクラスメートであり、英語や算数の先生でもあるそう。真っ白い人型でパッチリとした黒い目。みんなはノートパソコンで、プログラミングしたデーターをペッパーに送信し、仲良くなっている。

クララはジョージという少女に選ばれその家庭で暮らすことになる。ちょうど魚島の「ペッパー」の話題と重なり興味深かった。インシグロの作品はSF調だが、

オピニオン

読者投稿欄

これは今の世の中のすぐ近い未来だと思う。クララの姿形は詳しくは読み取れないのだが、想像で描いてみると、小柄な人型女子で、ずば抜けた観察力と学習意欲をもち、

限りなく心も身体も人間に近い。しかしいくら人間に近く、それ以上の能力を有していても生物ではない。身近にあふれる家電製品と異ならない扱われかたの、そのロボットたちの最期が、哀しくも残念なのだが・・・。

ペッパーのエネルギーは昼休みにする校長室での充電。クララは太陽光、お日さまの光。曇りや雨が続き弱る。しかしクララはそれを工夫して乗り切り、ジョージの盾となり、影に日向にジョージの成長を助けるのだ。魚島のペッパーが、これからどんな活躍をするのか、とても楽しみ。もしかしたら「うおしま丸」で弓削島にもやってきてくれるかもしれない。小・中学生のプログラムで動くペッパーと話ができるとうれしい。(弓削・平山久子)

月例会から

開催日時：令和4年5月28日(土) 14時~16時

場所：生名開発センター2階
内容：持ち寄り話題と意見交換

○防災訓練

○防災アプリと放送設備

○町内一斉清掃

○立石公民館渡船75才以上無料回教券

○ノリ加工場新設

これらにつき意見交換し、次号以降の機関紙に関連記事掲載

●ワトソンへの投稿募集中です

「ワトソン」の「オピニオン」や「最近になること」に、読者からの投稿を募集中です。前者は文章量500字前後、後者は300字前後。なお編集の都合で分量調整をさせていただきます。ご投稿ください。

目先を変えて、今号のようなオピニオン記事もありです。



「クララとお日さま」カズオ・イシグロ・著 2021年早川書房刊

投稿方法：可能な電子メールでの投稿。手書きでも可。投稿者の連絡先の明示(メールアドレス、電話番号、住所氏名等)を御願ひします。(ワトソン編集係)



便利なケータイ生活、思わぬもろさを露呈 非常時の情報伝達に課題をみた

auに引き続きDocomoでも通信障害が発生しました。各通信会社をお使いの方は、不便だったと思います。特にauの場合には電話が全くつながらない状況が長時間に及びました。私自身auユーザーで、電話してもつながらない、メールは自宅のWi-Fiで届くという状況で、情報が遅いし不便を余儀なくされました。

インターネット上ではauの通信障害で困った状況が多岐にわたって報告されています。「公衆電話がなくて困った」「同居の母に連絡が取れなかった」とか「救急車が呼べない」など、様々な声がありました。確かに今は携帯電話が主流で公衆電話がほとんどなくなっています。私も携帯電話を忘れたときに、電話を探して大変な思いをしたことを思い出しました。今や携帯電話は、手放せないものになっています。固定電話をなくして携帯の連絡のみという方もいます。スマホはパソコン並みの機能を持つていますし、日常生活に必要な情報はほとんどスマホに入っているという人も多いのではないのでしょうか。そんなスマホが使えないとなれば、正直パニックです。

だれも取り残さない情報伝達とは、二重三重の備えの存在だ。

新防災無線システムで無くなった告知端末器、やはり要るのではないか？

今回の通信障害で感じたことは、上島町の防災無線システムが弱いです。今回上島町で採用した防災システムは、携帯電話の電波を利用したものです。基本、携帯電話の通信網が確実に動いている、災害時にNITのアンテナを積んだ車等によって、すぐさま通信網が復旧するということを前提条件として

今までの通信障害はありま

閑話休題 ■「体育座り」廃止に？

床に尻をつけ両膝を立て、それを抱えて座る「体育座り」。この座り方が学校へ取り入れられたのは57年ほど前という。学校の集会や体育の授業などでみられる座り方だが、近年、子どもの身体に負荷がかかるという理由で体育座りを廃止した学校もあるようだ。

ネットで情報を見れば廃止には賛否相半ばで、それぞれの理由も頷けるものがある。あるアンケート調査によれば楽な座り方はあぐらが一番で、次が体育座り。逆にいちばん辛いのは正座。なるほどと納得もする。

座り方は一種国の文化でもあり、外国で標準とされるものが日本では行儀あるいとされたりで、なかなかむづかしい。それでも欧米では楽に座れれば、大体があぐらだということ、そのあたりは洋の東西を問わないのか？ともあれ長時間となれば、床に



直にすわるより椅子に座るほうが楽にちがいがなく、体育座りを廃止した学校はパイプ椅子にしたそうだ。それはそれで合理的。ところで廃止反対派の20代女性の意見に、「体育座り以外の座り方だと、全体が乱れてしまい、子どものけじめにならない」というのがあり驚いた。今は飛び級まで視野に入れた、個々の得意を伸ばそう、自由な発想を大事にしようという教育時代に、横並びで皆が一様でなくてはけじめがつかないという考え方が、もし若い人に染み付いているとすれば、これは文科省の目指すものと真逆の、まさに自発的隷従そのものに思えてならないからだ。もっとも今までがそういう教育だったので無理もないが、さてわが町ではこれからどのように展開してゆくのだろうか？ (ワトスン編集人)

- 自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋
- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - 活動
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。 ※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
 - 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

したが、通信障害に対する対策は現在も全くなされていません。auがだめになればDocomoがそれをフォローできるという仕組みすら確立されていないのです。したがって、この状況で必要なのは、わが町にあつては、希望者への戸別端末の配布だと思えます。

この個別端末は、どの携帯回線でも利用できます。一つでも残っていれば、情報が得られるのです。そうであれば、携帯スマホに加え、個別端末でも情報が拾え、屋外放送も、となれば、二重三重の受け皿であり、情報弱者を少しでも減らせることができる。上島町に住む皆さんに多くの安心感を持つていただけると思います。

行政の役割とは、民間ではできないことを行政サービスとして提供することです。情報は、みんなに伝わってこそ情報。まして災害時の備えは、行政が整えるべき基本の「基本的な機能ではないでしょうか。ルールを作って、不具合が生じたのであれば修正すればいいのです。上島町で作った決まりは上島町で変えられる。想定外が多いこの世の中で、臨機応変に対応することで多くの人が安心できるのであれば、それが住民のために行う政治ではないのでしょうか。政治は生活です。私たちの手で変えられます。(岩城 大西幸江)

旧弓削商船学校 昔物語り その2



— 学校設立功労者 —
初代弓削校長 中村晴二郎

このコラムは、最初に書きましたが筆者の発行していた「弓削通信No.52号」(2014年9月号)を、再掲に近い形で書いています。

記事中に、「ふるさと再発見」として中村晴二郎の墓碑銘を紹介しました。

下弓削の自性寺には、晴二郎ほか初代校長の小林善四郎、支援者田坂初太郎、その弟の為松濱根岸太郎ほか錚々たるメンバーの墓が鎮座しています。紹介したのは、そのうちのひとつである晴二郎の墓石に刻まれた銘と、その読み下し文です。ただ読み下し文は、紙面都合により次号で。(当時この碑文の読み下しには弓削商船高専名誉教授、元岡山商科大学教授の海軍史研究家、現在生名在住の村上貢先生の奥様であるみちよ様に大変お世話になりました。)



寺村墓
自性寺にある墓
弓削島・自性寺
墓に二大夫妻の

墓石正面には、
天倫院六石義晴居士(正面)
天慈院芳園鏡大姉(正面)
とあり、居士が晴二郎 大姉が晴二郎の妻です。

さらに向かつて左側面には、
君姓中村氏諱吉禮稱晴二郎越前守
弓削村之人者武兵衛村大永氏君其
父男也娶廣島縣徳田村徳永氏次女
生五男五女君以明治五年三月命下
弓削村里正再来繼續史職者三十餘
年歿掌公事終始如一曰明治三十八
と刻まれ、背面には

年九月二十五日以弓削村長病歿於
家享年五十九君資性謹嚴練達世務
公私之要莫不與而辨焉縣立弓削商
船學校之創立亦依其力者多矣明治
十七年官勸教育上功勞特賜玉篤章
部視箱志固同三十年依明治二十七
さらに向かつて右側面に
八年事件之功賜木孟吉組管異數也
室與志亦有淑聞大正元年八月二十
一日歿享年五十八共葬於海江山先
塋之次 年、計228文字で
晴二郎の事績が刻まれています。

この一文は、自性寺先代原田
恵滋和尚(令和4年2月遷化)に
伺ったところ、先代が揮毫
したもの、ということでした。
(つづく)

(文責・弓削・平山和昭)

立石港務所管理での公金の取扱い 担当部署の職員がするべき

今年3月末まで上島町が直営(公営事業課)で一括運営・運航して来た生名フェリー港務所管理業務部門(回漕店業務)とフェリー運航業務部門の2部門の内、公金を取扱う港務所管理業務部門だけを民間に委託する議案が議会に提出され可決された。

過去5年間の年平均運航収入が2億3千万円もある港務所管理業務部門を、4月1日から町内在住の私人が受託し、管理業務を行っている事実を知る町民がどれ程いるのだろうか。民間に委託する理由が、「限られた財源の有効活用と行政運営の効率化を図るため」この余りにも抽象的で具体性・説得性に欠ける文言を私なりに解釈すると、町直営の担当部署は、私人の管理運営能力と

比較して、非効率的で管理能力も劣り、財源の有効活用や行政運営の効率化も図れない組織である、となる。

だとすれば、ことは公営事業課だけでなく、町役場全体もそうだとせねば理屈に合わない。つまり理由とされた事態の責任は、町長の行政運営がもたらした結果と考えるのが妥当であろう。

フェリー運航収入が一日当たり約63万円もあり、乗船券等の徴収、収納、金融機関に預入等を私人に取扱わせることは、地方自治法第243条にある(私人の公金取扱いの制限)に抵触するおそれがあり、公金を私人に扱わせる事ができるとするその施行令158条にも、扱える公金の種類は厳しく制限されているものと考えて

上島町地域振興策・例えば海苔工場新築支援 議会での論議は十分なのだろうか？

先日、弓削に海苔加工工場を新たに建設するという事を、町長が議会に報告したと聞きました。議会での理事者の発言に、「費用の半分は国が持ち、残りの半分は県が持ち、町はわずかな負担で、これだけの事が出来るんですよ。」など、施策の自身の議論ではなく、税金の無駄使いではありませんよ、みたいな説明をされる事があります。多くの方々は、「さすが町長、町の為に大きな仕事を取って来てくれて、やり手だ。」と言います。一方議会では是非々々ではない、なんでも賛成団みたいない議員が過半数を占めているように、それでまともな議論が期待できるのでしょうか。

町の特産品のためと言うのは解ります。が、特産品には岩城の芋菓子やレモンポークや車エビ、弓削塩などある中

で、弓削海苔は気候変動と環境変化により、近年収穫量減少と聞きます。良い時は12月から1月、2月、3月と収穫が出来ていたが、今12月頃は海苔の出来が悪く12月頃で収穫は終わったと聞きました。そんな中、年々収穫が少なくなっている海苔の加工場を町が負担して新たに建設する意味がわかりません。なんのための施策なのか、どういう成果を目指しているのか、そこに至るまでのプロセスや、誰もが理解できる数値を示し、議会でもっと活発な議論をしてほしいものです。

弓削高校の学生寮も同じですが、たとえ町の負担が全体の中の一部だとしても、それも大切な税金です。バス料金の負担増や、公営フェリーの高齢者無料券の縮小などと比



<カード①>

この度の Au ケータイの電波障害には参った。急な電話をしたくて飛び起きた朝だったので。まあ自宅の電話で事なきをえたものの、もし出先だったら公共の電話を探したろう。だがそのとき気づく。テレホンカードは？あれはとっくにほかした？いやどこか机の引き出しにあるはず。探して財布にいられておかねば。

<カード②>

ひさしぶりにせとうち交流館で本を数冊借りた。そのとき受付で「利用者カード」とやらを支給された。もう今までのように、ファイルに各本ごとに色々記入しなくてもすむ。職員さんがさっと本にリーダーかざしてハイOKなんだもんな。なんと知らぬ間に図書館並みに進化してびっぴり。しかし遺憾ながら、実はこのカードでは公衆電話をかけられないのよね。(町内某&某)

町議会議員協議会を傍聴して 上島町の議会議員定数削減に思う

令和4年6月7日、議員定数削減の議員協議会があり傍聴しました。冒頭議長が、議員は住民の代表なので14人で決めればいい、との発言があり少し驚きました。議員14人のアンケート結果を踏まえての協議らしかったのですが、住民アンケートをすべき、それをすると手間暇金がかかる、誰が集計するのか、等の意見が出て迷走気味でした。

住民の意見を知りたいなら、閲覧板で【減らす、そのまま、増す】どれかに丸印をお願いし、地区委員に回収してもらえば大よその判断はできるはず。まあ、住民に問えば、こんな議員なら減らす、が大半かと思いますが、CATVでの議会の放映、傍

聴や知人との会話等で判断するでしょう。

年に一度でも住民と議会・行政報告の活動をする議員が居るので、住民をリードする議員であれば述べて欲しい。

先日議員有志と住民の意見交換会が岩城、弓削地区であり参加しました。弓削地区では住民からの厳しい意見が多くあり、出席議員はどの様に受け止めたのでしょうか。せつかくの懇談会に主流派か非主流派かは分かりませんが、一部の議員のみの出席だったので残念でした。

今期の町議会議員選挙の獲得票数の1位、2位、3位は新人議員でした。新人に対し【住民と共に歩む上島町を目指し頑張ってください】との期待の票だったと思います。立候補した時の公約を今一度思い起こして下さい。

どなたかが言いました。他所の自治体に合わす必要は無い。上島町独自の定数にすれば良い。さて結果は、どの様に落ち着くのでしょうか。(弓削・浜村 寿)

託は既に稼働している。このうえは、受託した私人が日々研鑽・努力し、公共交通の自覚と町民が納得する体制づくりとサービス提供に励んで貰うよう、議会も必分の責任をもって見守らねばならないだろう。(弓削・濱田高嘉)

オピニオン
オブザベーパール
読者投稿欄

ることを切望します。議会の傍聴席でいつも思うのは、議案の賛成、反対は個々の考えですから仕方ありませんが、賛否に付き討論で自分の考えをしつ

月例会から

開催日時：令和4年6月25日(土) 14時~16時
場所：弓削消防庁舎2階会議室
内容：持ち寄り話題と意見交換
○議員協議会傍聴報告
場新設、フェスパの現状ほかにつき意見交換し次号以降で関連記事掲載。

コラムへの投稿募集です

「ワトスンの「オピニオン」や「最近気になること」に、読者からの投稿を募集中です。前者は文章量500字前後、後者は300字前後、なお編集の都合で分量調整をさせていただきます。投稿方法・可能なら電子メールでの投稿、手書きでも可。投稿者の連絡先の明示(メールアドレス、電話番号、住所氏名等)を御願いたします。(ワトスン編集係)



2022年10月
(令和4年) 第8号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 ☎ 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
- 入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

後期高齢者の未来へのあゆみ 断捨離ではすまぬ財産整理

今夏、某お寺さんの施餓鬼では12名の旅立ちの方々がありました。張り紙に「合掌」手を合わせ明るい社会を」とありました。人生100年時代とも言いますが、人生いろいろ、人の死も色々です。

「私72歳です。20年程前に魚釣りが大好きなので魚島に移住しました。日々魚釣りができ楽しく過ごさせて頂きましたが、今一番考えるのがこの先々の生活です。子供に相談すると、魚島を後に帰えりて来いと言います。そうなると思います。どうしたら良いのかで悩んでいます。」

過日、議員定数削減の意見交換会が魚島であったので聞きに行きました。ある出席者から「議員削減についての意見で

聞きながら「貴方だけではありませんよ、私も含め後期高齢者になると自分の終活が気にならない人は居ません。特に子が島に居ない高齢者は、元氣な内に遺産分割、相続を考えないと、ある日突然病とかで倒れると心ななかで思いました。」



9月21日、各小学校区で運動会が開催された

全国的に空き家が増え続けています。お墓も、山、田畑も同様で荒れ放題。まるで猪に相

行政も空き家の固定資産税が収納できている間は良いのですが、いつの日にか未納になってゆくかもしれないことに対策を考えているのでしようか。たとえば空き家バンクや連絡の窓口にもなればよいとも考えますし、移住者への様々な助成金があるなら、一般住民による処分のための家屋解体費にも助成制度を設けるとか、財産処分について気軽に相談できる行政窓口を設けるとか。(弓削・濱村 寿)

岩城橋が開通して半年近く経ち、因島側の待機所も粗方整備され運用が始まりました。やはり当初の予想通りかなりの利用増しになっているようです。生名橋が開通して、弓削、佐島地区人々の車で島外への利便性が増し気軽に出かける事が出来るようになったのと同じく、岩城橋開通で岩城の方々の利便性も良くなったのではないのでしょうか。

岩城橋開通後半年 利便性の向上には小さな改善もマメに

生名から岩城橋への分岐点



フェリーが到着後の時間に、生名のコンビニプラの前の岩城への分岐点を、岩城方向に向かう車両も数多く見かけるようになりました。一番驚いたのは日中にも岩城橋を通る車両が多いことです。その方々は新たな移動理由が

出来たのか、不便でも費用がかかるから今までは単に控えていたのかわかりませんが、こうして町民の利便性が増し、生活の質が向上するのは間違いなさそうです。しかしまだまだ完全ではありません。先ほどの岩城橋への分岐点の正式標識が最近設置されましたが、立石港方面から来る車のうち、標識がありながら分岐点手前の郵便局の所で間違っ曲がってしまう車も見受けられます。このような事もありますので橋が開通したから終わりではなく、生名フェリーの生名側の待機所や、長崎側の待機所の運用についても問題はないか、フェリーの因島側の出航時間割の不自然さ等も含め今一度よく検証して、利用者の利便性につき改善をお願いしたいものです。(生名・濱田和保)

旧弓削商船学校 昔物語り その2



— 学校設立功労者 —
初代弓削村長 中村晴二郎

前号で紹介した明治7年からの初代弓削村長・中村晴二郎の墓碑銘の読み下しは次のようなものでした。

「以下が読み下し」

君、姓は中村氏にして諱(いみな)生前の德行によつて死後に贈る(称号)は吉續(よしつぐ)、晴二郎(せいじろう)と称す。越智郡弓削村の人。考(こう)「亡父」武兵衛(むへい) 妣(ひ)「亡母」は大山氏。君はその次男なり。広島県徳田村の徳永氏の次女を娶り五男五女を生(な)す。君、明治五年三月、下弓削村(り)せいに「村長」を命ぜらる。再(また)来(ら)「官吏」を継続するところ三十余年。公事に軟掌(おうちょう)「しよく」官吏(を)を一日のごとし。明治三十八年九月二十五日、弓削村村長にて自家に病没す。享年五十九。君は資性(せいせい)「資質」と性格(せいかく)「謙遜、世務」に練達し、公私(こうし)の要(かなめ)不與(な)これ莫(な)く、すなわち分けてもここに県立弓削商船学校の創立はまたその力の多き矣(かな)。明治十七年官勤(かんく)「つばみろく」おさめる、お役所勤め)や教育上の功勞に玉篇(たまひら)一部、硯箱(えんばう)一個を特賜さる。同三十年には、明治二十七年、八年の事件(日清戦争)の功により木杯(もくはい)一組を賜る。皆異数(いさう)「他に例のないこと」なり。室(むろ)君(きみ)は志(こころ)を(與)「ともにし」、また淑潤(しゆくぶ)ん「良い評判」有り。大正元年八月二十一日没。享年五十八。共に海江山(自性寺)の先塋(せんえい)「先にある墓」の次に葬る。



▲ 中村晴二郎のことが書かれている弓削町誌と弓削商船八十周年記念誌

晴二郎の事績はこの墓碑銘、弓削町誌、弓削商船学校八十年史に語られるのみですが出自は弓削です。江戸末期の弓削島の行政は上弓削庄屋を中心に祖頭、百姓代といった形で、下弓削村へは上弓削の庄屋田頭の縁者が就任したようですが、田頭から改姓した村井家、一時は中村家も動いていたので晴二郎はその中村家の血筋だったとおわれます。(つづく) (文責・弓削・平山和昭)

人口激減自治体における 地域医療のこれから考

2021年1月に弓削に誕生した「すぎ山クリニック」をご存じない方も多いのではないかと思います。私も、つい最近までその存在を知りませんでした。尾道の知り合いから、食物アレルギーをケアしてくれる医師がいるというので、紹介していただいたのが、なんと弓削の「すぎ山クリニック」でした。

また新型コロナウイルス感染症の対応などは、オンライン診療を使えば感染リスクも低減されますし、不安な人も診察が気軽に受けられます。私はオンライン診療が直接診療に勝ると考えているわけではありません。ただ様々な生活環境の変化に選択肢は多いほうがいいし、安心して暮らせることの助けになれば、ということ。

行ってみると、弓削土生の奥まったところにあり、普通の民家で、まったく病院らしくない。これでは、わからないのも無理ないと思います。ですが、この病院の取り組みに、これからの上島町の医療の可能性を感じました。それは、オンライン診療やオンライン投薬説明をしていただけるのです。

このすぎ山クリニックさんのオンライン診療は、単にインターネットを利用してというものではありません。医師は病院ですが、看護師さんが来てネットに接続、病状の確認をしていただけますし、動けない時などは点滴なども自宅ですていただけるので、リラックスした状態で診察が受けられることがメリットです。

岩城診療所でも往診はしてくれませんが、特に困ることはないのですが、特殊な病気などは島外の大きな病院や専門病院に行かなければなりませんし、一度診断が付けば、薬をもらうためだけに通っているということも多いのが実態です。そうであるならば、島外の病院と提携して、オンライン診療をしてもらう。オンラインの投薬説明を受けるとなれば、公共交通機関が不便な上島町でも、病院に行く時間や手間が省けます。町内に病院が少ないうえ、少し緩和される気がします。



▲空き家活用の すぎ山クリニック

移住定住促進は教育環境整備とセットで

「広報かみじま」2022年9月号に、島おこし協力隊活動報告書として隊員の中山なぎさんが、移住定住促進は教育環境とセットで取り組むべし、という趣旨のレポートをされておられたが、まさしくそのとおりであろう。

魅力になるかという点で、教育環境こそが大きなウエイトを占めるのではないかと、というのが先の報告書だろう。

ではそうした中で、この地の教育環境をより良いものに整えるというのは、具体的には何をさすことになるのか。

実は今までも行政としては腕をこまねいていたわけではない。さまざまな補助制度を設け、移住者や、弓削高公営塾への生徒募集などを行ってはきた。しかしこれまでのそれは、どうも札束で頬をなでるような施策が主だったように、筆者は見えてしかなかった。まあそれも過渡期的には仕方ない面もあったろう。であるならば、その評価や反省もしたうえで、これから取り組むとすれば、「質的な向上」を措いてほかには無い。地域にしろ子どもの親にしろ、教育の質というものにあらためて目を向ける必要がある。この町をどうしたいのか。どういう子どもに育ててほしいのか。 (弓削・平山和昭)

オピニオン
オブザピープル
読者投稿欄

多様な診療の形が選べる医療体制へ



夢のあれこれ

＜2060年あなたは何歳？＞
ほぼ40年後の上島町の様子が想像できるでしょうか。9月10日の愛媛新聞に、県と各市町の推計人口が載っていました。上島町は2020年は6,509人、2060年は2,396人。約63%減、県は41%減でした。逆の意味で夢のよう。ワシはすでに消えている。立ち会える人に幸あれ！ (町内いろは)

＜日本語が通じない世代間＞
夏休み、孫さん帰省しましたか。こちらも40～50年差の関係。ここ2、3年マスク通学の若い人たちは、のちにコロナ世代と呼ばれるのでしょうか。それなりに時代を楽しんでいいるのだろうが、あなたと孫さん、時々通じない言葉があったはず。でもお互いに話し合う時間をたくさん持とう。進化？する日本語を共有しよう。同時に古い言葉も。(町内ほへと)

いますが、多様な診療の形が選べるというものは、生活の多様化が進む昨今、患者ひとりひとりに寄り添った診察ができるのではないかと感じました。新しい医療の形を模索し、より安心して暮らせる形づくりができればいいなと思います。(岩城・大西幸江)

月例会から

開催日時…令和4年7月23日(土) 14時～16時
場所…弓削消防庁舎2階会議室
内容…持ち寄り話題と意見交換
○議員と住民との意見交換会傍聴報告(岩城・魚島・生名)
○生名渡船の時間割り等改善できないのかにつき意見交換。

●「ワトスンの「オピニオン」や「最近きになること」に、読者からの投稿を募集中です。前者は文章量500字前後、後者は300字前後。なお編集の都合で分量調整をさせていただきます。投稿は可能ならEメールで。手書でも可。宛先はA面に。投稿者の連絡先(メールアドレス、電話番号、住所氏名)を御願います。(編集係)

＜ゆめの商品券＞

この度の町発行のプレミアム付き商品券。何度も在庫処理販売のアナウンスがあった。町内の飲食店及び小売店等で使用可能ということで町内商工会加盟店でしか使えないし、当初生協や農協関連でのスーパーでは使えなかったのが、のち一定割合で使えるようになったのはよいとして、議会でもある議員が質問していたが、消費の拡大及び地域経済の回復が目的なら、バスや船の回数券とかにも使えるよう対象を広げればいいのにね。(町内ちりぬ)

きになる本

●上島町在住の作家お二方の新著作を紹介します。



川田長慶さん(弓削)
◎木花村風景始末記 ¥2,000+税
著者の故郷高知県大川村(早明浦ダムの湖底に沈んだ村)を舞台にした魂の運歴記。通販 Amazon で購入可。



夏坂周司さん(岩城)
◎積善 ¥1,800+税
著者が書き留めた積善山のスケッチと短歌で構成された詩集。通販 Amazon で購入可。



地域のこれからを
考える

2022年11月 第9号
(令和4年)

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yuguru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。
- 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

わたしのコロナ的体験記 救急搬送されて見えた僻地医療の現実

先日、新型コロナウイルス感染症陽性を体験しました。ちょうどテレビでは「今後は感染者の全数把握をしなければならず」というような情報が流れていたので、日本の感染症対策はどうなっていくのだろうかと思っていたころでした。

私の症状は、はじめに37度4分の発熱と体のだるさ、若干の喉の痛み。日ごろから体温の低めな私はこの熱でも車の運転は不安だったので、かかりつけのクリニックから往診に来ていたいただき、抗原検査で陽性を確認。かかりつけ医師のほうから今治保健所に連絡が行ったようで間もなく携帯電話に自宅療養の方法などのリンク先が送られてきました。

で、クリニックから様子見の電話があつたときに、食事のことを言うときに点滴に来てくれました。点滴も終わり、ひたすら寝ていたのですが、なんとなく息苦しく寝ているだけなのに息が上がりが、胸の真ん中あたりが重苦しい。これはちよつとまずいと感じクリニックに電話。状況を聞いた看護師さんが、すぐ点滴や酸素ボンベをもつて来てくれました。

血中酸素濃度も下がって、むくみもあり。熱も上がっている。そこで医師と連絡を取り状況確認の結果、夜間救急で肺炎の検査に行くことになりました。搬送先の病院では肺炎までには至っていないということだったので、点滴を打って症状も落ち着いてきたので一晩泊まって翌日の夜には帰宅となったのですが、この時いろいろ問題、というか課題が見えました。

僻地でも安心な医療態勢を

今回私は、クリニック医師の判断で尾道市民病院に行きましたが、通常コロナの場合は、救急車で愛媛県に運ばれるようです。病院の話だと、保健所に管轄エリアがあるので越境はできないそうで、因島までだといわれました。最近の感染症の法改正の方向も県単位になる話で、これでは県境に住む私たちは、助かる命さえも助からなくなるかもしれないと不安を覚えます。広域医療とか広域連携とかいろいろ言われますが、実際には国や県の縛りがつよい。コロナにかぎらず、もしものことがあつたときにどうすべきか、どうしてほしいのかは、普段から考えておく必要があると感じました。

僻地の医療体制の確立や仕組みづくりは、私たち住民の求めと自治体の取り組みによってしか変わりません。安心して楽しく暮らせるよう僻地医療の環境改善をしていきたいと思いました。

(岩城・大西幸江)

お手伝いください。 上島町保育留学／里親活動の活性化

上島町の人口の推移1950年(昭和25年)1万5千552名↓2020年(令和4年)6千379名に。41.1%に減少しています。こうした人口減少、少子化問題解消に少しでも、過疎の進む町に、子育て世代の人が移住、定住したくなるような願いを込めて「島っこの街創り保育園留学」【里親の街創り】を推し進めていきたいと思えます。私はこの2本の柱を充実させることで人口減少、少子化問題解消にチャレンジする所存です。



子どもは、社会の大事な大事な、宝もの

空き家対策、観光対策、就農、就職対策等と連携することが出来れば、「島っこの街創り保育園留学」【里親の街創り】が成功するでしょう。

①保育園留学とは
1〜3週間ほどこの地で暮らし、豊かな食や自然を通じてお子さん・ご家族皆さんに島暮らしや、地域とのつながりを感じられる食育体験をします。

また行政としては、子ども園や地元農家、地元事業者と協力しあい、地域内外に開けたかわり方をしていくことで、長期的持続可能なライフスタイルを形成していきます。

②里親の街創りとは
子供は安定した環境の中、保護者の支えを得ながら成長していきます。しかし現実には、家庭の事情で保護者と離れて暮らさなければならぬ子供も数多くいます。こうした子供たちを、深い愛情と理解をもってご家庭で育ててくださる方を(里親)といいます。

関心のある方々との集いを作り、一步一步進めたいと思います。ぜひご連絡いただければ幸いです。

連絡先: 上島町岩城 岡田賢二
☎090-1245-0505・Eメール
sukeidathitoto@yahoo.co.jp

旧弓削商船学校 昔物語り その2



―学校設立功労者―
初代校長 小林善四郎

【5】

明治34年、1月11日付で弓削村外一ヶ村(岩城村)学校組合長に対し、前年11月13日付けでの愛媛県知事への弓削海員学校設置申請につき、修業年数3年の実業補習学校として認可する回答がなされました。これが現在の国立弓削商船高等専門学校の前身です。

明治12年に住友吉右衛門によって創設された大阪商船学校は、明治22年から東京商船学校大阪分校となっていました。そうしたなか、全国各地に商船学校が続々設立されるようになり、この大阪商船学校は明治34年で廃止と決まっていた。すると、その施設と共に学校を誘致しようという運動が全国各地におこりました。



初代校長小林善四郎

愛媛県では松山の三津浜が有力候補となっていたようですが、それが瀬戸内海の寒村であった背景には、当時弓削島には甲種船長13名、機関長3名ほか機関士、水夫・火夫長など総勢735名の叩き上げの船員がいたことに加え、郷土出身の甲種船長であり実業家でもあった田坂初太郎、濱田富五郎、初代村長の中村晴二郎をはじめ村議会議員、村民有志の並々な献身的努力あつたのととされています。

開校当時魚眉の急とされた問題は、校舎と寄宿舎、職員人選という難問でしたが、まず校長としては大阪商船学校長であった小林善四郎を迎えることとなり、講師には伊勢松阪出身で、鳥羽塾で航海術を学んだ辻橋秀雄、弓削太田出身の乙種二等運転士の免状所持者木村友市を迎えての、まずは開校準備でした。(出典:弓削町誌) 次号より当時の様子を紹介します。(つづく)

(文責: 弓削・平山和昭)

「道の駅」整備

ひたし

構想不明のまま直走する町に疑問!

先の9月議会で町長から次のような行政報告がありました。

「上島町も継続施策はもちろん、新しい資本主義の目的に沿った上島町らしい新たな政策に取組んで参ります。その中でも「道の駅」整備については重要な施策として捉えています。」

9月8日開催した9月議会では、上島町一般会計補正予算案9千9百万円が示され、生活応援商品券に約3千5百万円、コロナワクチン接種に約3千2百万円、観光応援割に約1千5百万円に加え、「道の駅」整備に伴うポテンシャル調査業務委託料として99万円が計上されています。

9月13日、議長を除く全議員で構成する予算決算委員会では、審議の結果、補正予算案総額9千9百万円から「道の駅」関連予算99万円だけを減額する修正案が賛成多数で可決されました。

しかしながら9月21日再開された議会本会議に於いては、「予算決算委員会」では減額修正に積極的に賛同し、記名・捺印した議員までが寝返つての採決の結果、7対5で「道の駅」予算を含む原案が可決されました。驚きました。

この多くの議員に見られる、中身がわからずとも「無いより有る方が良い」とのお気楽で、無責任な思考回路がうらやましく思えます。

「道の駅」予算案99万円を減額すべきと考えた主な理由は次の通りです。

1. 「道の駅」整備構想に当たって、町自身による調査・研究・検討を行うのが通例だが未着手だった。また協力を願うべき地元商工会、農業事業者、漁業事業者、観光事業者等や有識者からの意見聴取や相談もしていない。
2. 「道の駅」の施設整備場所は、「ゆめしま海道」沿いと考えるのが常識的だがその場所さえ未定。施設面積も未定。施設の内容等も不明。全体構想計画も示されないなかで予算99万円と言う金額の情報だけ。これでこの事業の何が吟味でき、何が判断できるのか。
3. 「道の駅」整備の方法は、「ゆめしま海道」の管理者である愛媛県と上島町で整備する「一体型」と、上島町単独で整備する「単独型」の2種類があるが、どの型にするかも未定であった。

(弓削・浜田高嘉)

イギリスのエリザベス女王さまが他界しました。若い頃外国の港町で映画鑑賞に行きました。スクリーンに女王の笑顔が映りお客さんが総立ちだった昔々の記憶がよみがえりました。

我が国でも安倍元総理の国葬がありました。賛否はそれぞれです。下弓削でも9月16日に、高齢女性の行方が分からない事案が発生しました。このお婆ちゃんとは挨拶をしたりデートボールの昔話をしたりでした。

今年の上島町避難訓練では、潮音寺の避難場所に、老人車を

引きながら石段を登って来るではありませんか。二人程度援助に行き避難場所に到着。元気なお婆ちゃんの記憶しかありません。4日程経ち亡くなって見づかりました。

このことから、各区ないし地

寂しい9月 お悔やみ申し上げます

区には自主防災組織がありませんが、災害時だけではなく、今後はこの様な事案が発生したときでも地区を動員し、一日も早い発見をするべきと思いましたが、年々高齢者が増えるなか一人暮らしで簡単な会話は健康者と変わらない認知症の高

齢者が周囲に居るのも事実です。むろん日々元気で昼間の散歩は良いですが、時間を忘れ、暗くなり、帰る道が分からなくなる事もあります。そんな高齢者に、80歳過ぎると電波で位置確認のできる物を携帯さすとか、車に付けるなどしてはど



うか、と思うところ。そういうことへ行政の支援があれば、どれだけ安心感が増すことか。人生100年時代、日々挨拶やさりげない声かけで、自らの住む地域を楽しくしましよ。合掌。
(弓削・まだ八十・浜村寿)

最近きになること



こんなアンケートが

「あなたの「週末」とはどれ？」
金と土、土と日、金と土と日。

生活様式によって、その感覚はさまざま。これから年末が近づくと、カレンダーや手帳が気になります。カレンダーの週間表は、日曜日から始まる派？月曜日から始まる派？この頃の手帳は、月曜日から始まるのが多いように思います。うっかり買って、「しまった！」と思ったりすることがありました。ともあれ、多様な生活形態で構成されるのが社会。とりあえず自分の選択で。
(町内・某&某)

お祭りとお郷心

今年も町内の秋祭りはコロナ理由で神事のみとか規模縮小でとか、各地苦渋の選択で催行された様子。ただお祭りは地域全体が関わるので子どもにとっては参加した思い出は愛郷心の揺りかご。可能な限り出番を作る工夫がほしいもの。
(町内・昔は子ども)

月例会から

開催日時：令和4年9月24日

(土) 14時～16時

場所：岩城開発センターホール

内容：持ち寄り話題と意見交換

○岩城北地区防災訓練について

○9月定例議会について

●ワトスンのコラムへ投稿募集

●お詫び ワトスン第8号「オ

ピニオン」の記事中、編集ミ

スにより中列の上段下段の記

述が入れ替わっていました。

お詫びします。(編集係)

共助は地域と無関係では機能しない 朝のラジオ体操で築く地域とのつながり

自分から求めなければ近所や地域の人と係わりもたず生きていける現代だ。他人からどのように思われようとわずわらしくはなく、嫌なことはいらないで好きな事だけをして生きていける世の中だ。そのように思っている人が増えているのでしょうか？

たとえば表札を出さない、電話帳で名前番号を伏せる、地区会に入らない、引越してきても近所に挨拶しない等。理由があるとおもいますが、地域のことや防災を考えている方達からすれば、災害などが起きた時には助け合

なければならぬ対象の人。放っておく訳にはいかないのです。

日頃からの近所の人との挨拶、声掛けなどが大切なのは当たり前だと思っただけですが、さみしい気がします。

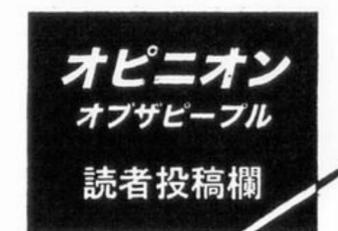
ある時、3軒裏の高齢のお婆ちゃんが、死後2週間ほどの、いわゆる独居死で見つかった事があり、ショックでした。もちろん顔は知っていましたが、普段どうしていたのかなど知りませんでした。

孤独死の事がよくニュースになりますが、まさか身近で起きるなんて想像さえしていませんでした。結局私も、近

所の事を何も知らない、何も知ろうとしない人だったので。様々な理由があった、としてもです。

そのことがあって私は、地域の事を知るための世間話を

朝6時30分、生名郵便局裏の公園でお待ちします!



する機会が少なかった、と感じ、近くの公園で毎朝6時30分にラジオ体操をすることにしました。

最初は一人で始めましたが近所の人や通りがかりの人な

ど一人また一人と増え、多い時には十人ほどですようになりました。

強制でもないのに来たり来なかつたりでもありますが、普通に挨拶ができ、いろいろな話が出来ようになり、良い事だと思っていました。最近では高齢になり、足腰が痛くて来れなくなった人などが増え寂しい状態になってきました。興味ある方は、ぜひ生名郵便局裏の公園に朝6時半に顔をお見せください。

この事で改めて思ったことは何事も自から求めなければ始まらない、という事。

いかがですか。皆さんも思い切って自から求めて動いてみませんか。

(生名・濱田和保)



役場職員による入札妨害事件に思う

この間から新聞やテレビのニュースなどで取りざたされている役場職員、しかも町長の片腕にあたる町の幹部である建設部長による入札妨害事件。

逮捕されたという事はそれなりの証拠と確信があつての事だと思われまふ。本町に上島町民として恥ずかしい限りです。

私たち町民にとって、どここの田舎町にもある狭い世界での役場職員と業者のなれ合いの結果だと簡単にかたづけしてしまふ程小さな出来事ではありません。

入札の予定価格が前もつてわかるという事は業者にとつて大変ありがたい事です。ラ

2022年12月 第10号 (令和4年) 発行:上島町自治研究会 〒794-2506 越智郡上島町下弓削515 NPO法人・頼れるふるさとネット気付連絡先 Tel 090-8247-5279 (平山和昭) Eメール yuguru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体 上島町自治研究会趣旨抜粋

- 目的 ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。 ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。 ③会は定期的に自治研究会を開催する。 ※但し現在のところ毎月第4土曜日、14時～開催中。場所についてはお問合せください。 ●入会/退会 ④入退会には特に条件を定めない。

10月23日(土) 秋晴れのなか 岩城「北地区防災を考える会」主催の防災訓練をしました。

「北地区防災を考える会」とは、西日本豪雨災害を受けて、岩城島の赤石、小漕、長江、船越の4地区の防災士の有志が作った任意団体です。設立して4年毎年1度は、防災訓練を行っています。

今回は、新型コロナウイルス感染症を意識し、感染症対策を取り入れることにしました。ご協力いただいたのは、日本赤十字松山支部、上島町社会福祉協議会、上島町消防防災課、上島町岩城日本赤十字奉仕団の皆様です。

まずは感染症対策と避難生活時の炊き出し訓練ということ、上島町岩城日本赤十字奉仕団所有の移動式かまどを利用した炊飯体験を行いました。耐熱のビニール袋に、無洗米とお水を入れて茹でます。1台

イバル業者との入札に出来るだけ高額な金額で仕事を請け負うことが出来る優位な立場を得ることからです。裏を返せば、税金の支出を出来るだけ少なくするための入札が、結果としてより多くの税金の支出になつてしまふことにつながります。弱小赤字財政の私たちの町にとつてはかけがえのない少ない税金が、必要以上に多く支出されたかもしれません。

この建設部長はかなり以前より建設課長、建設部長と大きな金額を動かすポジションに登用されてきており、この長い期間に他に同じようなことが無かつたのかどうか大変気になるところです。氷山の

ずつに分かれているので感染症対応としても有効です。持ち帰りも手軽。今回は訓練でしたので、カレーも用意し、その場で食べることもできるようにしました。そのため「器とスプーンを必ず持参してください」とアナウンスしました。

炊飯をしている間に日本赤十字松山支部による「感染症対策を含む災害時の備え」という防災講座と、北地区防災倉庫にある段ボールベットや簡易トイレの組み立てなどを行いました。

段ボールベットの組み立ては、子どもでも組み立てられ、子どもが2、3人乗っても大丈夫です。岩城・北地区集会所での自主防災訓練風景



一角でないことを祈るばかりです。 そうですね、上島町の過去の建設関係の入札結果も他の市町村より高い水準で推移してきており、もし同じようなことが続いていたとしたら、子供たちの為、お年寄りの為、予算要求しても予算を削られ、何とかやりくりしてきた各課の職員からすれば、無駄遣いされたに等しいお金があつたとしたら、少しでも足しになつていたのでないか、と思うとやりきれない気持ちでいっぱいだと思います。

いずれにしろ捜査の行方を見守るしかなく、今回の事件を機にまっとうな町となるよう祈るばかりです。(生名・濱田和保)

夫なものであることが確認できました。簡易トイレは、組み立ては難しくありませんが、組み立ててみると問題点がありました。中が見えないように工夫されているもの、明るい場所では中を誰かいるのが透けて見え、これでは安心して使用することができません、女性の利用を考えると設置場所には工夫がいるとわかりました。

「AEDによる救命処置と応急処置」も2人に1つの装置と人体模型だったので、全員体験ができ、よかったです。 今までも何度かやっていますが、「だれかやってください」となると、遠慮してやらない現象が起きます。数があれば遠慮が起きないので、こういうやり方もよいと思います。 今回の訓練も100名ほどの参加で、地域住民の方のほか、他地域の方も参加していただき、また多くの部署の方にかかわっていただいたことで災害時にどんなことが出来るのか、どんな状況が考えられるのかの新しい視点がもてました。 来年もこの活動を進めます。ぜひ次回もご参加ください。(岩城・大西幸江)



— 学校設立功労者 — 初代校長 小林善四郎 [6]

明治34年開校当時の生徒は、修業年限3年。入学資格は高等小学校2年以上、今で言えば小学校卒業の年齢であった。 小林善四郎校長の教育方針は現実主義であり、徹底した訓練により身体強健で強い精神力をもつ、実社会にでればすぐ役に立つ船員の育成というものであったという。したがって日常の躰や訓練はその方針に沿ったもので、生徒の日常生活は簡易を旨とし、暖衣飽食はゆるさず、平素の食事は一菜主義。勤労愛好の精神涵養のため、作業を徹底的にやらせ、寒中でも作業はズボンが高くまくりあげ裸足で、学校内外の清掃、庭運動場の手入れ、食料燃料の運搬野菜づくりから便所の汲み取りまですべて生徒の仕事としてやらせた。現代なら考えられないかもしれないこの方法論は、教室でも厳しく、3年生ともなれば原書を使い運用術を講義し、できない者はどしどし再習させたので生徒の英語力もめきめき伸びたという。



この厳しい学業で、明治37年第一回卒業生は、30数名入学中9名であった。 座学終了後さらに3年の乗船実習を積み甲種免許取得に挑むわけだが、結局この9名中、全科を卒業したのは5名で後日いずれも名船長として母校の名を高めた。その5名の名前は、浜田喜四郎、中村吉郎、酒井春一、花田幸三郎、前田愛二郎。全員弓削村出身で、現在の弓削商船高専の近くにある弓削神社境内には、この方々の寄進した記念碑を見ることが出来る。(文責・平山和昭) (出典:弓削商船高等小学校六十年史)

●写真は、旧・弓削商船学校第一期の卒業生前田愛二郎が寄贈した石柱 (弓削神社参道)

さんま 秋刀魚はいまや海のダイヤに

秋刀魚に大根おろしが旨い時季となりました。煙と匂いが家中に残るので外で七輪で焼いていた秋刀魚も今は高級魚となりました。60年程前、三陸沖の捕鯨に係わっていた頃、鯨を捕獲すると宮城県の下川港に渡鯨していました。町に鯨を解体する事業場があったからです。



女川を聞くと3・11の津波で町が殆ど壊滅した町です。当時は秋刀魚の水揚げも含め水産業が盛んな町でした。秋刀魚を加工場に運ぶのにダンパカーに山積にして運搬です。土砂とは違い魚がつるつるなので道路のカーブでは山積の秋刀魚がこぼれ落ちます。沿線の住民がバケツを持って拾う姿が秋の風物姿でした。それ程沢山捕れていた秋の味覚が激減しています。店頭で2匹パックが500円前後で並ぶのを見ながら、もはや海のダイヤです。温暖化での海水温、外国含め



▲南水洋捕鯨時代の母船(の渡鯨風景)

漁業者の乱獲、漁具の性能など現因はあるのでしよう。近ごろの秋刀魚はメタボではなく8頭身なので、脂で黒焦げとはならない気がするのには私だけでしょうか。秋刀魚も含め海からのお宝が激減しているのも事実です。北の魚と言えは鮭、鱈、鱒。これらは、親より子供が高値です。(イクラ、数の子、タラコ)

あれから60年。自然界も人間界も変わりました。温暖化に少子高齢化。魚は養殖、人はロボット。余りにも早く過ぎ去る時代に追いつかず、落ちこぼれ高齢者にサギが飛来。だます貴方が悪いのか、だまされた私が阿呆なのか。果ては魚釣り迄も餌を付けないギジ餌のサギ釣。だまされた魚が哀れ。その魚で乾杯・・・

そう言えば福島の原発処理水を海に放水する計画がありますが、風評被害に泣かない魚、美味しい魚、安全な魚、笑顔で旨い魚が泳ぐ海の恵みをお願いします。

保育留学・里親活動の推進 お手伝いください。

(その1)



子どもは、社会の大事な大事な、宝の

前号につづき「島つこの街創り」について、です。「60歳でも里親はできますか？」最近はどうした方が増えています。里親になりたいというのとはとても尊い事だと思います。しかし乳児や幼児相手では、高齢者には体力的にも厳しいでしょう。でも中学生や高校生の子もいます。その受託はできると考えます。それには相応の資格審査等を

クリアせねばなりません。里親となり、子どもたちが社会に巣立つ前に、一般常識や社会人としての礼儀や行動など、折に触れて教えることもできるでしょう。また進学を希望している子どもたちに、落ち着いて勉強できる環境を提供し、専門学校や大学に進学してからも措置延長をしてあげることが出来るように活動することも

最近になること



空のペットボトルはどうしてる？

弓削高生たちが「ゆたかな未来を考える」として環境問題に取り組んでいます。海洋プラスチックのゴミ問題も大きなテーマのひとつ。先に閉店した町内の生協店には回収箱がありました。職員さんに声をかけてはみましたが・・・？

今のところ、
1、燃えるゴミとして出す。
2、因島へ買い物に行くとき回収箱のある店へ行く、ですが、資源にもなるゴミ。町のゴミ収集日に、「カン」「ビン」のほかに「ペットボトル」もあらたに加えてほしいものですね。

図書館がほしいなあ
図書館の有無は、その地域の文化政策のバロメーターだと聞いた。いま歴史資料館をつくる話が進んでいるようだが、ちゃんと司書さんのいる図書館も併設されるといいなあ。
(町内・某&某)

この地に移り住んで9年

日々折々の想いを画歌集にして出版

ワトスン第9号も充実した紙面でした。大西幸江氏のコロナ闘病記を読んで、コロナの恐ろしさが直に伝わってきました。もう少し詳しく知りたいと思ったことは、一、ワクチンは打っていたか、二、感染源はどこか、三、マスクはしていたか、などです。なお「医療体制の確立や仕組み作りは、住民の要求や自治体の取り組みによってしか変わらない」、には共感しました。

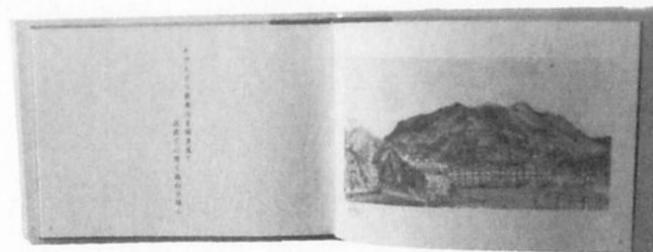
ところで私ごとで申し訳ありませんが、この夏、画歌集「積善」を上梓しました。この地にお世話になって9年になりますが、その恵まれた環境にはいつも慰められています。

燧灘、石鏡山と四国山地、後ろにそびえる積善山と、素晴らしい自然に囲まれて、穏やかな生活を送らせて頂いております。時に浮かぶ短歌を書き留め、気分任せて絵を描くなど

オピニオン オブザピープル

読者投稿欄

して過ごしてきましたが、これらを併せて本にすることにし愛媛新聞サービスセンターのご理解とご尽力を得て念願の本が出来上がりました。町内の各学校へも進呈しました。



絵と歌を見開きにし、全30枚のスケッチを綴じました。岩城島ばかりでなく弓削島、生名島、佐島、魚島も載せていますので、是非たくさんの町民の方々に楽しんでいただきたいものと思っております。なお本書を手に入れるには、通販に限らず、岩城物産館と小漕のYショップ、下弓削の「しまでカフェ」でも買えます。是非よろしくお願い致します。なお価格は税込み1,980円です。(岩城・夏坂周司)

巻頭歌

そびえ立つ積善山を仰ぎ見て
真直ぐに育て島の子供ら
独りだけ遠く遁げて来た汚染の地
われを赦せよ手倉のかたくり
(手倉山は福島・宮城県境の山)
命よみがえる瀬戸の春かな
最終歌

題対応に貢献できるのではないかと考えるのです。そういう仕組み作りには、是非あなたのお知恵とお力を貸していただければと願っています。

連絡先：上島町岩城 岡田賢二
☎090-1245-0505 Eメール
sukejathitoto@yahoo.co.jp

月例会から

開催日時：令和4年10月22日(土) 14時～16時
場所：弓削せとうち交流館体験場 交流室にて
内容：持ち寄り話題と意見交換
①機関紙校正
②耕作放棄地対策について
③官製談合事件について
④公共施設利用料の現状

●ワトスンのコラム投稿募集中。
文字数800字前後まで。
(編集係)